

方保田東原遺跡 10

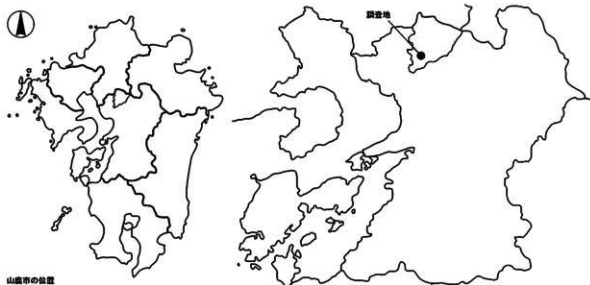
平成16年度国庫補助事業 遺跡内容確認調査報告書

2008

山鹿市教育委員会

か　と　う　だ　ひがし　ば　る
方保田東原遺跡 10

平成16年度国庫補助事業 遺跡内容確認調査報告書



2008

山鹿市教育委員会

序 文

方保田東原遺跡は、弥生時代の中九州を代表する大集落遺跡として、昭和60年に国の史跡として指定されました。山鹿市教育委員会では、遺跡のさらなる保護を目的として、国および県の補助を受け平成8年度から範囲確認ならびに内容確認調査を実施し、その成果に基づいて平成18年度に追加指定されたところです。

本書は、このうち平成16年度の遺跡内容確認調査の成果をまとめたものです。この報告書が、埋蔵文化財の保護に対する理解を深め、学術研究の進展に少しでも寄与するならば幸甚に存じます。

なお、本調査を実施するにあたり、調査検討委員会として多年にわたりご指導を賜りました小田先生、甲元先生、高島先生、棚田文化財調査官をはじめ文化庁、熊本県文化課の各位、さらに文化財保護に理解を頂き、多大な御協力を賜りました地元地権者に、深く感謝申し上げます。

山鹿市教育委員会

教育長 田 中 宏

例 言

- 1 本書は、下記についての埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 1. 遺 跡 名 方保田東原（かとうだひがしばる）遺跡（熊本県道跡番号208-179）
 2. 調 査 地 53次調査 熊本県山鹿市方保田字東原35番地
54次調査 熊本県山鹿市方保田字東原41番地 1
 3. 調査原因 遺跡内容確認調査（国庫補助事業）
 4. 調査期間 第53次調査 平成16年10月5日～12月27日
第54次調査 平成16年11月9日～12月27日
整 理 調 査 平成16年11月～平成20年3月、出土文化財管理センターにて
- 2 基準点測量を有限会社遺跡整備計画に、空中写真撮影を有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
- 3 本書の執筆編集は、宮崎が行った。
- 4 調査で出土した遺物および作成した図面・写真等は、すべて山鹿市出土文化財管理センターで保管している。
（〒861-0382 熊本県山鹿市方保田128番地・電話0968-46-5512）
- 5 本書で用いた標高はT.P.（東京湾平均海面高度）である。方位は世界測地系に基づく。
- 6 本書に掲載した地図は「山鹿市都市計画図 1：2,500」平成14年、「山鹿市全図 1：25,000」平成16年の一部を調整したものである。
- 7 本書に掲載した遺構実測図の縮尺は1：20・1：50、遺物実測図の縮尺は1：1・1：2・1：4を基本とする。各実測図にはスケールを付した。
- 8 遺構は検出順に番号をつけ、性格を表す記号をつけた。SD：溝、SH：竪穴住居、SK：土坑、SX：落ち込み。
- 9 出土した赤色顔料付着遺物の顔料については、ベンガラと水銀朱を肉眼で判断した。今後理化学的な測定で結果が変更される可能性がある。

本文目次

序文	
例言	
目次	
第1章 調査の経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 位置と環境	1
第3節 調査の方法	3
第4節 調査の経過	4
第5節 法令等の手続き	5
第2章 53次調査の成果	
第1節 グリッドの設定	6
第2節 層序	6
第3節 遺構と遺物	6
第3章 54次調査の成果	
第1節 グリッドの設定	20
第2節 層序	20
第3節 遺構と遺物	20

挿図目次

第1図 方保田東原遺跡の位置	1
第2図 調査区の位置	2
第3図 調査区の配置と周辺の調査	3
第4図 53次調査 遺構配置	7
第5図 53次調査 土層断面	8
第6図 53次調査 1・2号住居	9
第7図 53次調査 1・2号住居出土遺物	10
第8図 53次調査 2号住居出土遺物	11
第9図 53次調査 3・4・6・7・8号住居	12
第10図 53次調査 5号住居	13
第11図 53次調査 6・7・8号住居出土遺物	14
第12図 53次調査 9号住居と出土遺物	15
第13図 53次調査 10号住居・土坑SK-69と出土遺物	16
第14図 53次調査 落ち込みSX-77出土遺物	17
第15図 53次調査 遺構外出土遺物	18
第16図 53次調査 鉄製品	19
第17図 54次調査 遺構配置	20
第18図 54次調査 土層断面	21
第19図 54次調査 1号住居と出土遺物	22
第20図 54次調査 2号住居と出土遺物	23
第21図 54次調査 3・4号住居と出土遺物	23
第22図 54次調査 土坑SK-10（裏柏）・集石遺構	24
第23図 54次調査 土坑SK-7	25
第24図 54次調査 遺構外出土遺物	26

目 次

表1 周辺の調査	3
表2 方保田東原遺跡 報告書一覧	5
表3 53次調査 遺物観察表	27
表4 53次調査 遺物観察表	28
表5 53次調査 遺物観察表	29
表6 53・54次調査 遺物観察表	30
表7 54次調査 遺物観察表	31
表8 53・54次調査 遺物観察表	32

写真目次

写真1 調査風景	4
写真2 市民見学会	5
写真3 土坑SK-10(裏棺)の掘削	5
写真4 調査風景	6
写真5 53次調査 鉄製品	19
写真6 53・54次調査 赤色顔料付着遺物	25

写真図版

図版1 調査地全景	
調査地遠景(南から撮影)	
調査地全景	
(右:53次調査区 左:54次調査区)	
図版2 53次調査 遺構	
調査区全景(南西から)	
調査区全景(南から)	
図版3 53次調査 遺構	
2・3区(東から)	
調査区全景(北から)	
図版4 53次調査 遺構	
調査区西壁(北東から)	
B・4区2号住居 遺物出土状況(東から)	
A・4区土坑SK-69(東から)	
図版5 54次調査 遺構	
調査区全景(南から)	
1・2区(南東から)	
図版6 54次調査 遺構	
A区1号住居(東から)	
C区3・4号住居(南東から)	
B区土坑SK-10(裏棺)(北から)	
A区集石遺構(東から)	
図版7 53次調査 遺物(2号住居)	
図版8 53・54次調査 遺物	

第1章 調査の経緯

第1節 調査の経緯

方保田東原遺跡は昭和60年に国史跡に指定され、以後断続的に山鹿市教育委員会が発掘調査を実施してきた。平成8年度より国・県の補助を受けながら遺跡範囲確認調査を実施し、全体の面積が35haに及ぶ大集落遺跡であることが判明した。調査は遺構存在を確認するためのトレンチ調査が主体であり、調査区幅が2～4m程度と狭く、性格を把握できない遺構が多かった。このため、面的な調査によって遺構の内容を把握することを目的として、平成13年度から16年度にかけて内容確認調査を実施した。これらの調査によって、多数の住居や溝などの遺構が検出され、多量の土器や金属製品など貴重な遺物が出土した。

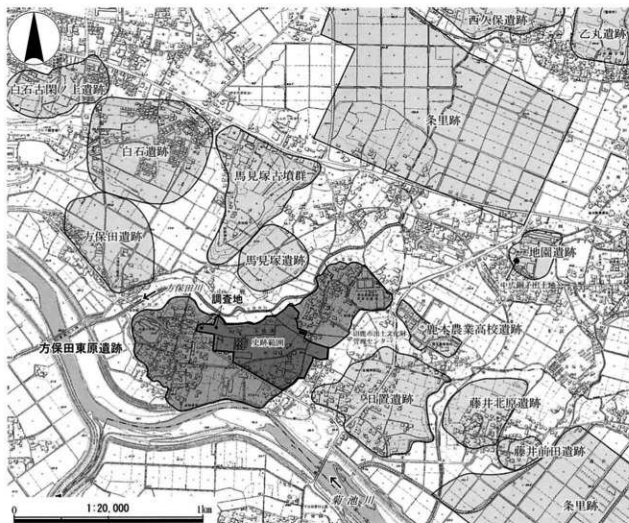
山鹿市ではこれらの調査成果に基づき、遺跡保護が必要な範囲について史跡の追加指定を申請し、平成

18年7月28日付文部科学省告示第118号で周辺地区が史跡に追加指定された。指定面積は80,209.29㎡である。昭和60年指定面積との合計は106,905.23㎡となる。

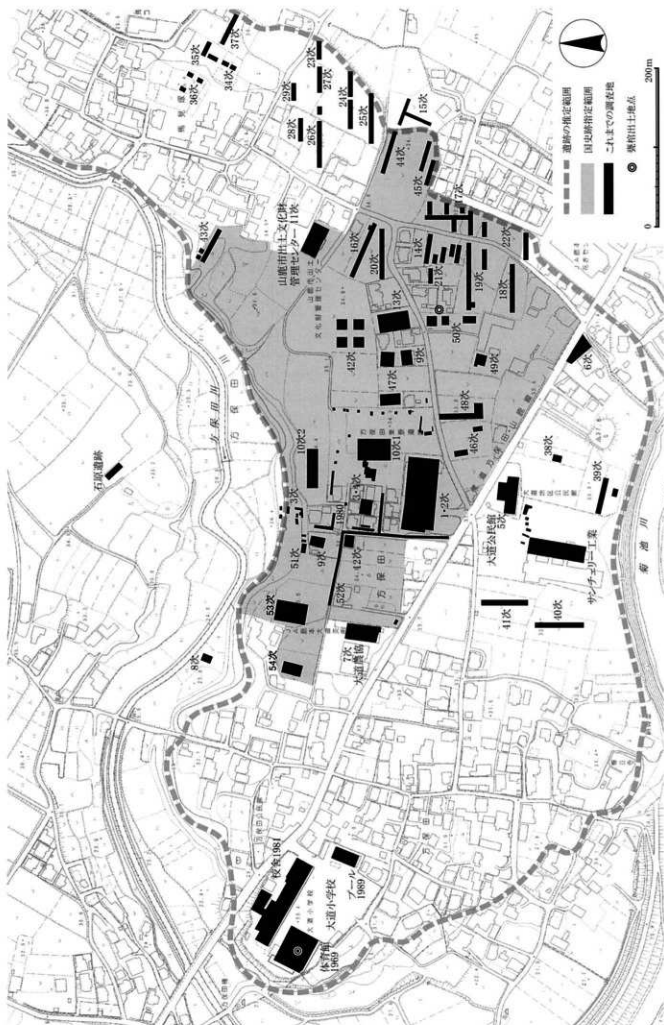
第2節 位置と環境

平成16年度は二箇所で開催された。調査地は遺跡の北縁、方保田川に接する台地の縁近くに位置する。ともに畑として利用されていて、両調査区の間隔は東西で約60mである。

周辺では南側で7次、東側で9・12・51・52次、北側の方保田川近くの低地では8次調査が実施されている(表1)。平成8年度以降の範囲確認調査では、遺跡推定範囲の東側で重点的に調査を実施していたため、今回の調査地周辺は調査事例に乏しく、この地域の遺構内容を確認する目的で対象地を選定した。なお、遺跡における地理的・歴史的環境およびこれまでの調査内容については、既刊報告書を参照されたい(表2)。



第1図 方保田東原遺跡の位置



第2図 調査区の位置

第3節 調査の方法

①調査の体制（役職は調査当時・敬称略）

主 体 山鹿市教育委員会

責 任 者 田中 宏（市教育長）

総 括 中村幸史郎

（博物館首席研究員兼文化財調査係長）

調 査 指 導 小田富士雄（福岡大学）、甲元眞之
（熊本大学）、高島忠平（佐賀女子短大）、
瀬戸田桂男（文化庁記念物課）、西住欣一郎・木村元浩（熊本県教育庁

文化課）、隈 昭志（博物館館長）

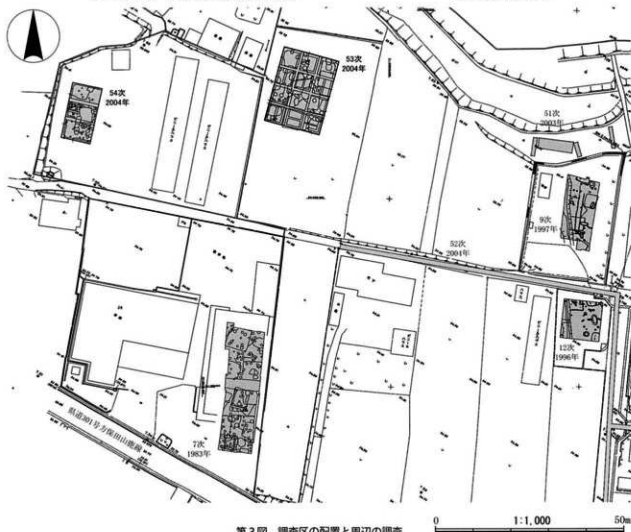
調 査 担 当 宮崎 歩（博物館研究員）

事 務 局 木村理郎（文化課長）、

山口健剛（博物館研究員）

現地作業員 井口計介、岩本正美、王丸ゆかり、垣
田菜美、佐藤昭三、田上亜紀、築嶋節
子、富田スミ子、平尾トシ子、平尾直
孝、堀京之助、宮崎喜久男、若杉清美、
若杉敬子

整理作業補助員 前田軍治、野満彩子
（教育委員会嘱託）



第3図 調査区の配置と周辺の調査

調査次数（地番）	調査年度	調査原因・目的	調査成果	掲載報告書
7次（63番地）	1984	農協建設	住居、溝。石包丁形鉄製品	市博報告第7集、1987
8次（1554番地）	1990	水田道構確認	墨書土器、木製品	市博報告第11集、1991
9次（32-2番地ほか）	1991	個人住宅建設	住居、溝	市博報告第12集、1992
12次（84-3番地）	1996	個人住宅建設	住居、溝。鉄器多数	市博報告第14集、2001
51次（30番地ほか）	2003	遺跡内容確認	溝	文化財報告第4集、2007
52次（87-6番地ほか）	2004	下水道建設	住居、溝	作成中

表1 周辺の調査

整理作業員 生島統夫、大森よう子、小原朱実、古
関美奈、城 葉子、洲上厚子、森みつ
よ、山口美智子、渡邊 晃
調 査 協 力 上野啓之、奥村康喜、村上カツ子（地
権者）、鹿本農業協同組合（J A 鹿本
大道支所）

②調査の方針

調査に際しては遺構内容の確認を目的とするため、検出にとどめて完掘していない。性格が不明な遺構や、時期把握が必要と判断した遺構についてはサブトレンチを設定し、一部を床面まで掘り下げたものもある。しかし、必要のない部分まで掘削が及んだ遺構や、検出に失敗して掘りすぎた遺構もある。これは担当者の遺構認識不足に起因するものであり、調査検討委員会や県文化課などの指導を仰いだ上で判断するべきであった。今後の調査にあたっての反省としたい。

③調査の方法

調査の名称は、調査次数（第53・54次）と番地（35・41-1番地）を併用した。調査地の形状と地形にあわせて、任意の方で調査区を設定した。調査区の表土を重機によって掘削し、調査員が包含層の状態を確認しながら遺構面まで掘り下げた。その後、作業員によって遺構面を清掃し、遺構を検出した。検出状況の写真撮影と平板測量を実施し、平面で完全に出できない遺構は、サブトレンチを掘削して断面でも確認した。遺構番号は検出順に設定し、記号をつけた。竪穴住居の番号は整理段階で新しく設定したものであるため、調査時の呼称とは異なっている。このため、整理調査段階で作業がやや混乱した。今後の反省点である。

遺構および遺構に伴う遺物の出土状況については十分の一もしくは二十分の一で図面化し、標高を記録した。時期を特定するために取り上げた遺物以外は現地に埋め戻した。検出中に包含層から出土するなど遺構に伴わない遺物については地区と層位を確認して取り上げ、石器や鉄器などの特殊な遺物は平板で出土地点と標高を記録して取り上げた。写真機はカラーリバーサル・モノクロフィルムを使用し、基本的に35mmフィルムカメラを、補助用としてデジタルカメラ、全体写真用として中型カメラを使用した。調査の最終段階に調査地周辺の環境を把握できるよう、RCヘリによる空中写真撮影業務を委託した。調査区の位置をこれまでの調査成果と合わせるため、座標測量業務を委託した。

整理調査はまず遺物をすべて水洗・乾燥した。遺物量は内法54×34×15cmのコンテナで30箱（53次：20箱、54次：10箱）である。遺物は調査員が選別し、遺構の時期を示すもの、特徴的なものを中心に選別し、注記後接合した。実測は作業員が中心に行い、適宜担当者が確認した。鉄器については担当者が実測した。印刷仕上がりは二倍サイズに実測図を縮小し、ロットリングペンでトレースした。一部の図面はデジタルトレースによる。遺物写真はデジタルカメラを使用して担当者が撮影した。整理作業の終了した遺物や実測図・写真類は、出土文化財管理センターで保管している。

今回の報告では、担当者の力量不足と紙数の制限等により、十分まとめることができなかった。喪棺や赤色顔料付着土器について、これまでの事例とあわせて検討する必要がある。また、今後の遺跡保護と活用のためにも、数十次に及ぶ調査成果の意義について遺構・遺物の総合的検討が課題であろう。

第4節 調査の経過

平成16（2004）年

10/5～ 53次：調査区設定。重機掘削、0.2級バックホーおよびキャリア各1.0台日。機材搬入、遺構検出開始。ガラス玉1点。

10/12～ 遺構検出、C-1区にサブトレンチ。袋状鉄斧・ヤリガンナ、石包丁1。古代の土器も多い。

10/18～ 遺構検出。北壁・南壁断面写真撮影、実測。各所でサブトレンチ設定。

10/25～ 遺構検出、秋の長雨ではかどらない。シートで遺構面を保護すると排水に時間がかかる。

11/1～ 全景写真、断面撮影。実測開始。

11/8～ 平・断面図実測。

11/15～ 排水、実測。教育長来訪。排出土よりガ

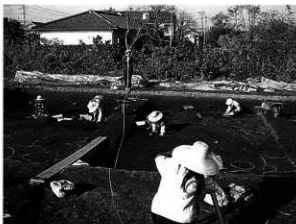


写真1 調査風景

ラス玉1点。

11/17～ 54次調査の重機掘削、0.2級バックホーおよびキャリー各1.0台日。遺構検出。滑石製石鍋。
11/22～ 53次：実測、レベル測定、土器取り上げ。54次：検出写真撮影、サブレンチ設定・掘削。

11/29～ 54次：遺構検出、西壁・南壁の写真撮影と実測。現地にて記者発表、TV2社・新聞5社。タイミング悪くその翌日に土坑10がサブレンチ掘削により喪棺と判明出土。山下文化財保護委員長来訪。

12/5 現地説明会。前日の降雨で現地はかなり湿っているが、シートをかぶせていなかったため水はたまっていない。案内看板設置、受付設営、遺構表示、遺物展示。10時～3時で81名参加。

12/6～ 53次：B-1・C-1区包含層掘削。54次：喪棺掘削・写真撮影・実測。ラジコンヘリによる空中写真撮影。鹿本町立来民小学校探検クラブ10名。市議会文教厚生委員23名。

12/14～ 54次：喪棺取り上げ。文化庁より福宮

田文化財調査官、調査指導。

12/20～ 甲元熊本大学教授・高島佐賀女子短大
長・小田福岡大学教授による調査指導。ご指導を受け、54次：集石遺構について再検討するも判断できず。埋め戻し、機材撤収。現地調査終了。

第5節 法令等の手続き

今回の調査における文化財保護法および遺失物法等の規定に基づく手続きは以下のとおり。

発掘調査の通知：(53次) 16.9.29山博M8-40号
→16.10.13教文第1876号

(54次) 16.10.28山博M8-48号
→16.11.22教文第2274号

結果報告：16.12.27山博M8-55号

実績報告：17. 3.31山文M8-87号

発見届・保管証：16.12.27山博M8-56号

文化財認定：17. 1.21教文第2838号

譲与申請：17. 7.19山文M8-39号

譲与通知：17. 8. 3教文第1177号



写真2 市民見学会



写真3 土坑SK-10（喪棺）の掘削

書名	シリーズ名・番号	発行年	内容
方保田東原遺跡	山鹿市立博物館調査報告書第2集	1982	昭和47・49・56(1～3次)範囲確認
方保田東原遺跡(2)	山鹿市立博物館調査報告書第3・4集	1984	昭和56・57年度(5次)小学校・公民館
方保田東原遺跡(3)	山鹿市立博物館調査報告書第7集	1987	昭和59年度(7次)事務所改築
市内遺跡確認調査報告書	山鹿市立博物館調査報告書第11集	1991	平成2年度(8次)水田遺構確認
市内遺跡確認調査	山鹿市立博物館調査報告書第12集	1992	平成3年度(9次)個人住宅建設
方保田東原遺跡IV	山鹿市文化財調査報告書第14集	2001	平成8～12年度(13～41次)範囲確認
方保田東原遺跡(5)	山鹿市文化財調査報告書第17集	2004	平成13年度(42～45次)内容確認
方保田東原遺跡(6)	山鹿市文化財調査報告書第18集	2005	平成14年度(46～48次)調査概要
方保田東原遺跡(7)	山鹿市文化財調査報告書第2集	2006	平成4・10年度 小学校改築
方保田東原遺跡(8)	山鹿市文化財調査報告書第4集	2007	平成14・15年度(46～51次)内容確認

表2 方保田東原遺跡 報告書一覧

第2章 53次調査の成果

第1節 グリッドの設定

調査区は南北20m、東西15mの長方形で、5mごとにグリッドを設けた。グリッドの境界部分は幅60cmとして断面確認や通路に利用した。グリッド名称は調査区の西から東にA・B・C区、北から南に1・2・3・4区とした。北東端はC-1区、南西端はA-4区となる。調査面積は300㎡である。

第2節 層序（第5図・図版4）

調査地の標高は約33.75～34.1m、畑として利用されていたためほぼ平坦で、わずかに南西から北東方向に低くなる。地表面から0.6～0.75mの掘削で遺構検出面に達し、その標高は約33.0～34.1mであった。調査区の基本的な堆積は以下のとおり。

- I層（耕作土）厚さ20～30cm 黒褐色砂質土
- II層（包含層）厚さ20～30cm 黄褐色粘質土、土器を含み、しまらない
- III層（遺構埋土）暗褐色～黒褐色粘質土、地山起源のロームブロックを含み、しまらない
- IV層（地山）黒褐色土・灰～黄褐色土、ややしまる検出面と遺構埋土の色調が類似している上に樹根やモグラ穴などの擾乱が多かったため、遺構の検出は困難であった。土層のわずかな明暗や粘性、包含物の量によって判断したが、最終段階まで遺構判断に悩まされた調査であった。

第3節 遺構と遺物（第4図）

調査区の全体で竪穴住居13、土坑8、溝1、柱穴などを検出した。



写真4 調査風景

①1号住居（第6・7図）

調査区南東端（C-4区）で北と西の一部を検出した。南と東側は調査区外へ続く。検出範囲ではおおむね方位に沿った配置のようである。南北3m以上、東西は3.6m以上。調査区周壁のサブレンチを掘削し、深さ0.3mで地山に達している。床面は検出していない。検出中に若干の遺物が出土し、脚台付きの甕などがある。

②2号住居（第6～8図・図版3・4・7）

調査区南端（B-4区）で検出した。今回の調査で最大規模の住居である。C-4区に西辺があり、南は調査区外へ続く。北・西辺は調査区のベルト下にあり、周壁の部分のみを掘削して住居のラインを確認した。北辺は溝SD-78に掘り込まれる。東側の1号住居との距離は0.6m、接近した位置にある。全体を検出していないため主軸方向は不明であるが、東辺を見ると1号住居と同様の方位に沿った配置か。南北は4m以上、東西4.35m。

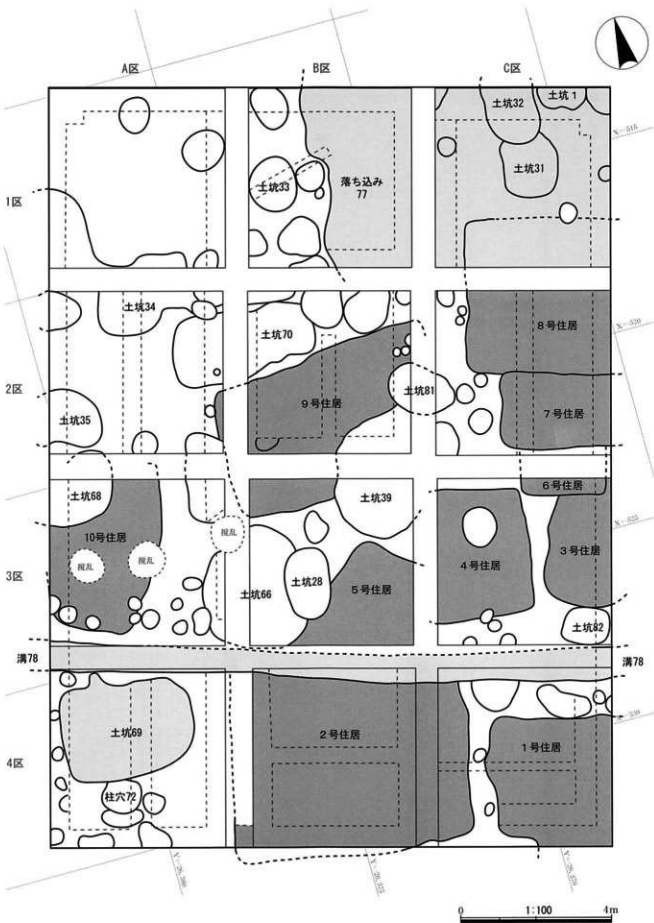
調査区周壁南側のサブレンチを掘削し、深さを確認した。東は浅く（0.2m）、西が深い（0.35m）。サブレンチ部分では底面が平坦ではなく、凹凸がある。床面は検出していない。

検出中に全体から土器などが多量に出土し、規模の大きい住居であることから、時期を確認するために遺物を取り上げた。

遺物は甕・壺・高杯・鉢・小型丸底甕などがあり、甕が多い。甕には頸部に刺突文を施す6・18と波状文を施す8・11がある。甕6の刺突文は縦に三個並べ、甕18は体部外周を四等分する等間隔の位置に一個ずつ施す。ヘラ状工具による波状文は、甕22の頸部にも施されているが、ごく浅い。

③3号住居（第9図）

調査区東部（C-3区）で一部を検出した。南側を土坑SK-82に、北側を6号住居に掘り込まれる。東は調査区外へ続く。主軸や規模は不明。検出規模は南北2.9m以上、東西2.1m以上。西辺ラインは直線的ではなく、緩やかなカーブであることから、土坑の可能性もある。調査区東壁のサブレンチを掘削し、深さは0.15～0.2m程度。床面は検出していない。遺物は出土していない。台石と思われる石材（直径35×28cm、厚さ15cm）を一点検出したが、表面には打撃や擦痕などは確認できなかった。

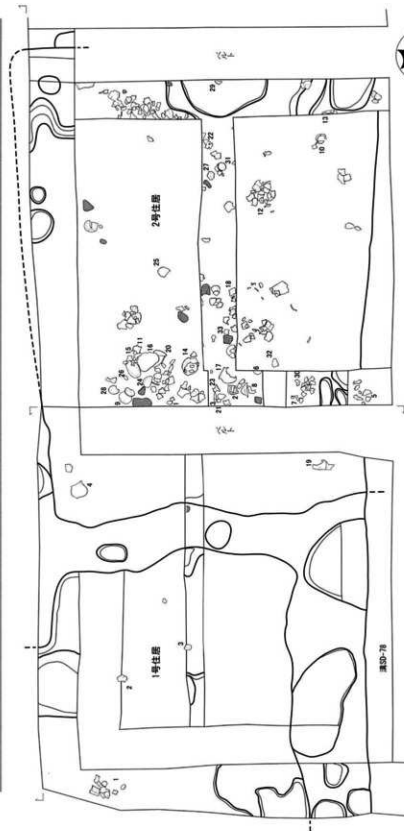
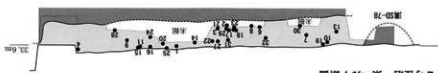


第4図 53次調査 遺構配置

第5図 53次調査 土層断面



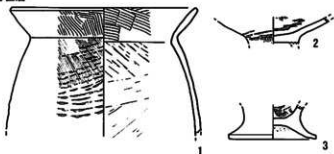
1・2号住居 南壁断面



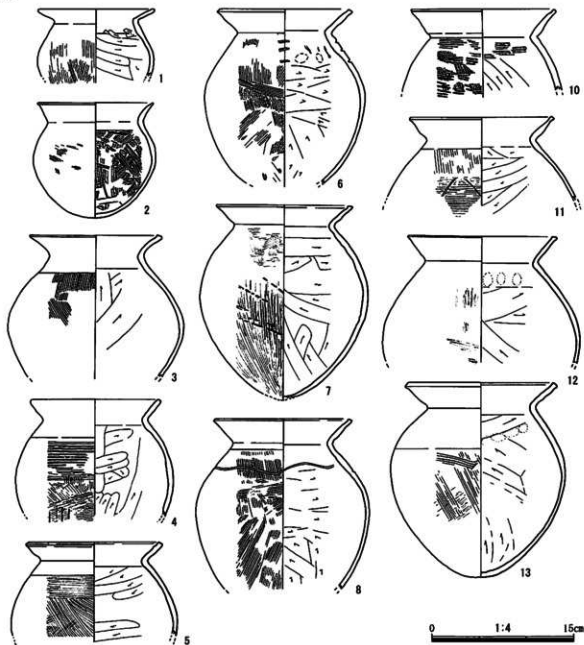
- 1. 土
- 2. 土、黄褐色粘土(包含物)
- 3. 土、黄褐色粘土、やぐら
- 4. 土、黄褐色粘土、やぐら
- 5. 土、黄褐色粘土、やぐら
- 6. 土、黄褐色粘土、やぐら
- 7. 土、黄褐色粘土、やぐら
- 8. 土、黄褐色粘土、やぐら
- 9. 土、黄褐色粘土、やぐら

第6図 53次調査 1・2号住居

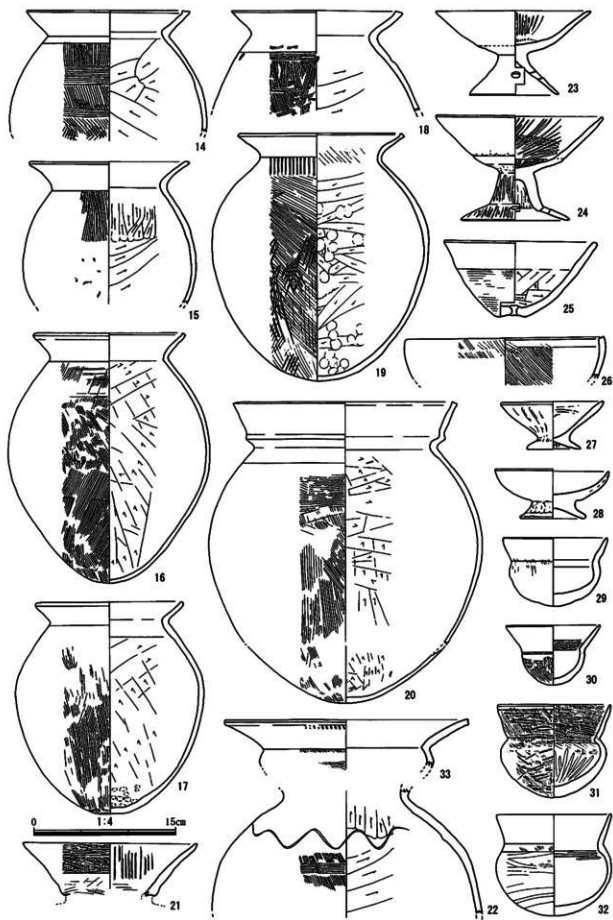
1号住居



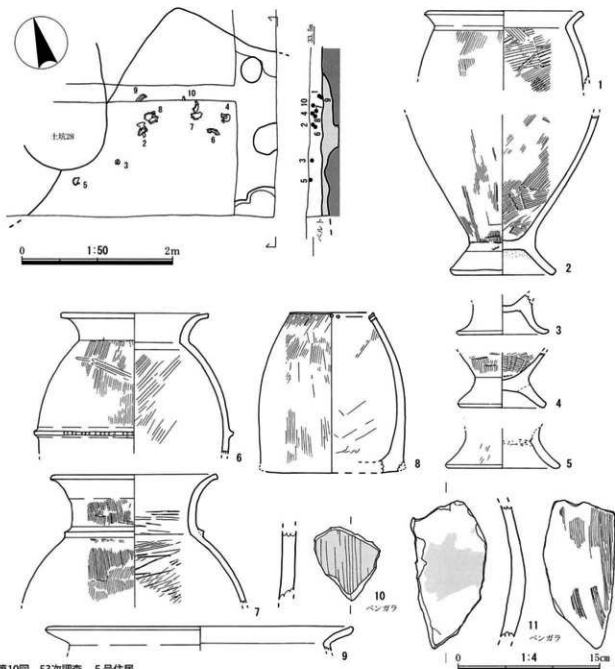
2号住居



第7図 53次調査 1・2号住居出土遺物



第8图 53次調査 2号住居出土遺物



第10図 53次調査 5号住居

④4号住居（第9図）

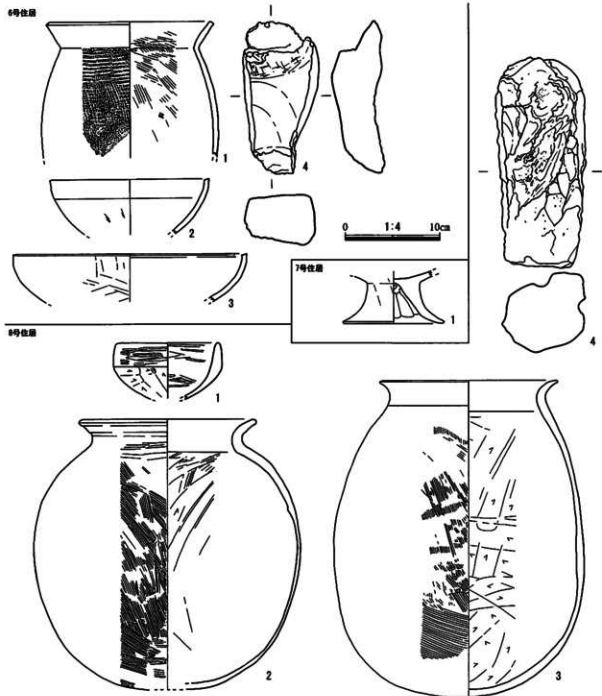
調査区東部（C-3区）、3号住居の西側で一部を検出した。西側はベルト内にあり、検出していない。主軸は不明であるが、ほぼ方位に沿った配置である。南北3.2～3.4m、東西は2.6m以上。平面検出にとどめたため、深さは不明。中央付近で時期不明の円形土坑（0.95×1.0m）に掘り込まれる。住居から遺物は出土していない。床面も検出していない。

⑤5号住居（第10図）

調査区中央付近（B-3区）で一部を検出した。西辺を土坑SK-28に掘り込まれる。南側の2号住居、西側の4号住居・中世溝と切り合い関係があるはずだが、

その部分がベルト内にあるため平面で検出していない。主軸は不明、検出した北西隅部分は方位から20度ほど振れている。規模も不明。検出範囲で南北2.5m以上、東西3.4m以上。東側のベルト部分でサブトレンチを掘削し、この部分の深さ0.15m。

遺物には脚台付の甕、突帯のある甕、赤色顔料付着土器などがある。赤色顔料はともにベンガラで、外面に付着する体部破片10と内面に付着する11がある。今年度の53・54次調査で出土した赤色顔料付着土器14点のうち、顔料が外面に付着するのは1点のみである。内面にベンガラのある体部破片11は付着したというより塗りつけたようにも見える。器種不明の土器8は在地の器形にない搬入品。北部九州系か。底部



第11図 53次調査 6・7・8号住居出土遺物

外縁は欠損するがわずかにふくらむようである。口縁近くに穿孔が二個ある。孔はどちらも焼成前、外面から内面に向けて開けられている。口縁の他の箇所にも穿孔されていたかは不明。

⑥6号住居（第9・11図）

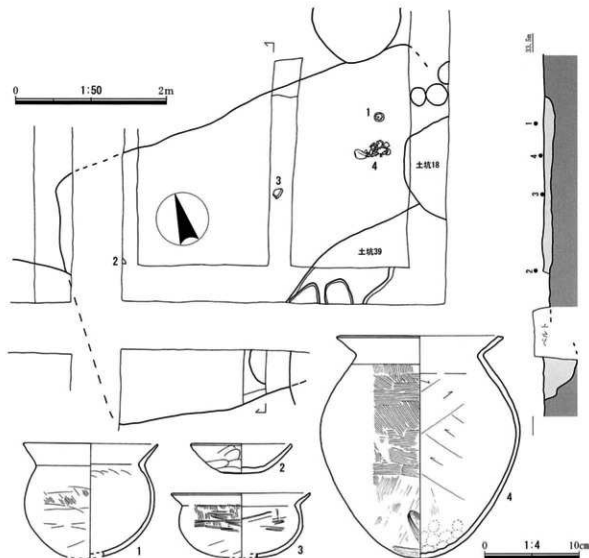
調査区東部（C・3区）でごく一部を検出した。南側の3号住居を掘り込み、北側の7号住居に掘り込まれる。主軸は不明だが、ほぼ方位に沿った配置。東辺の検出に失敗し、調査区東壁のサブトレンチを掘削してしまった。東壁の断面では6号住居の埋土を検出し

ていないので、東西は2.6m以内である。

遺物は少量で、甕、鉢、砥石がある。砥石4は三面を使用している。

⑦7号住居（第9・11図）

調査区東部（C・2区）で一部を検出した。南側の6号住居、北側の8号住居を掘り込む。東側は調査区外へ続く。主軸は東西方向で、ほぼ方位に沿った配置である。平面は長方形で東西が長辺となり2.9m以上、南北が短辺で2m。深さは東壁サブトレンチ部分で0.2m程度。底面は平坦ではない。検出中にごく少



第12図 53次調査 9号住居と出土遺物

量の土器が出土した。図示したのは古代の台杯鉢の脚台部。

⑧8号住居（第9・11図）

調査区東部（C・2）区で一部を検出した。南側を7号住居に、北側を落ち込みに掘り込まれる。東は調査区外へ続く。主軸は不明、配置は7号住居と同様、ほぼ方位に沿う。南北4.2m、東西3.8m以上。深さは東壁サブトレレンチ部分で0.3m程度。検出中に古代の土器が出土した。

遺物は甕、鉢、軽石製支柱がある。支柱4は熱を受けた痕跡が見られない。底部を平坦に、全体を円柱状に加工する。同様の支柱が落ち込みSX-77からも出土している（第15図16）。類似する遺物はこれまで方保田東原遺跡で出土していないが、遺跡では確認調査が主であり、住居址の完掘事例に乏しいことによるのであろう。

⑨9号住居（第12図）

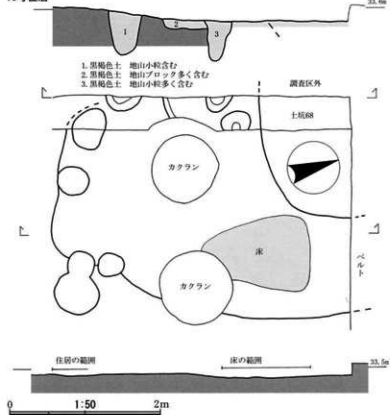
調査区中央（B・2・3区）で一部を検出した。北側は土坑SK-67に、南・東側は土坑SK-39・81に掘り込まれる。土坑から遺物は出土していない。住居の平面形は東西方向に長い長方形、主軸は東から10度程度振れる。南北3.6m、東西5.1m。中央付近で南北方向のサブトレレンチを掘削し、この部分の深さは0.2m。南壁付近でやや深くなる。

全体で若干の土器が出土したが、やや浮いた位置のものもある。甕・鉢などがある。

⑩10号住居（第13図）

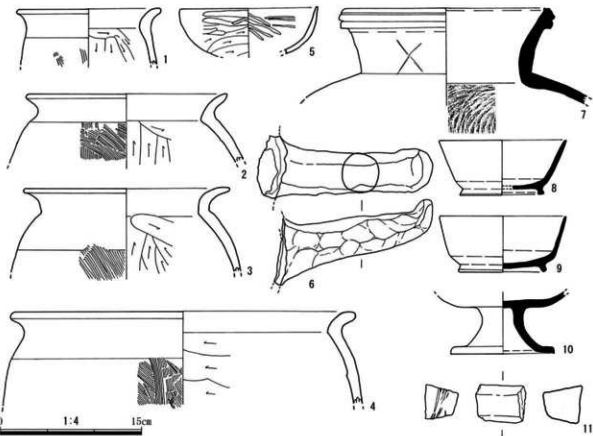
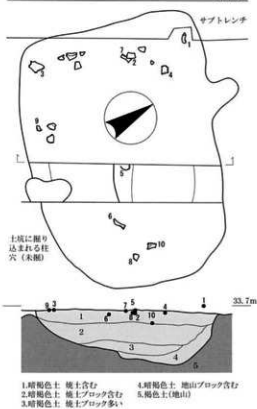
調査区西側（A・3区）で一部を検出した。時期不明の柱穴25・27、土坑SK-68、現代の貯蔵穴に掘り込まれる。北側のA・2区中央に設定した南北方向のサブトレレンチで北辺を検出しておらず、ベルト下に位置するのであろう。南北は4m程度、東西2.5m程

10号住居

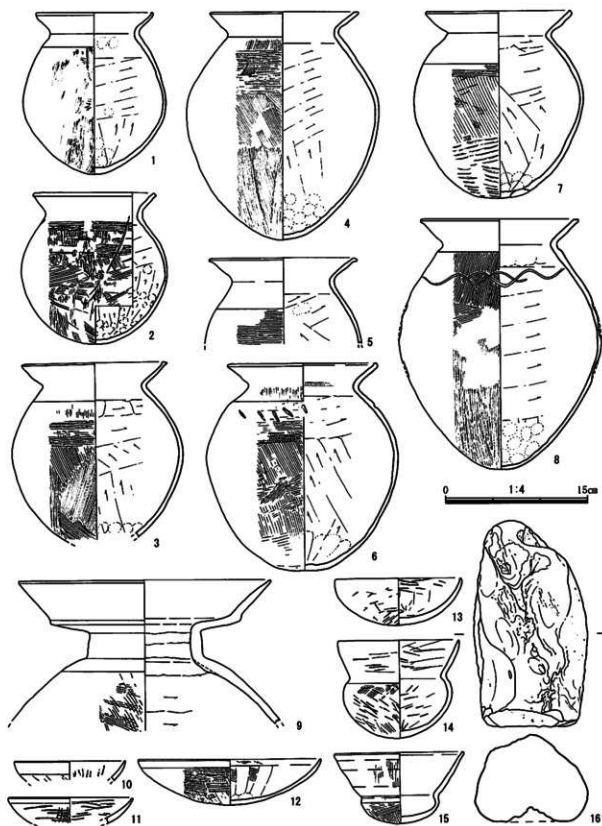


土坑SK-69

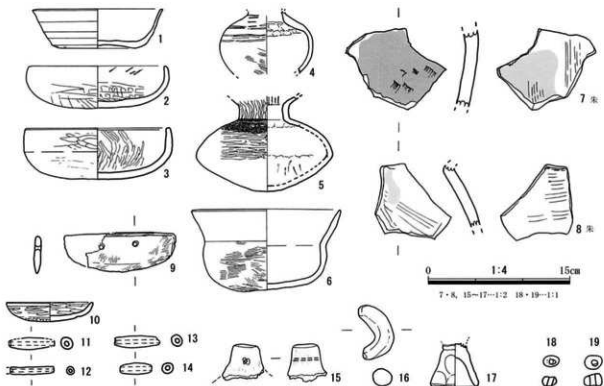
調査区外



第13図 53次調査 10号住居・土坑SK-69と出土遺物



第14図 53次調査 落ち込みSX-77出土遺物



第15図 53次調査 遺構外出土遺物

度か。平面は南北に長い長方形、主軸は東辺で北から20度程度振れている。深さは西壁サブトレンチの一部で確認し、0.1m程度。検出した硬化面は南側を現代の貯蔵穴に掘り込まれる。硬化面の平面は不整形円形、南北1.3m以上、東西1m。住居から遺物は出土していない。

⑩土坑SK-69（第13図・図版4）

調査区南西（A・4区）で検出した。平面は隅丸長方形、中央付近に設定した南北方向のサブトレンチを掘削し、断面や深さなどを確認した。東西3.5m、南北2.4m、深さ0.7m。検出中とサブトレンチ掘削中に古代の土器が出土した。

遺物には土器（土師器・須恵器）と石器がある。土師器は甕・鉢・把手がある。把手6は116cmあって、通常の牛角形把手よりかなり細長い。須恵器は高台のある杯身、高杯、甕があり、甕7の頸部外面にはタタキ調整の上部に「×」状のヘラ記号がある。砥石11は四面に研磨使用の平坦面が、一端に筋状の痕跡がある。

⑪落ち込みSX-77（第14図・図版8）

調査区北側（B・1～C・1区）で検出した。黒褐色粘質土の埋土で古代の遺物を含んでいたため、下層遺構を確認するために掘削した。8号住居（C・2区）などを掘り込む。西から東方向に深くなり、調査区北

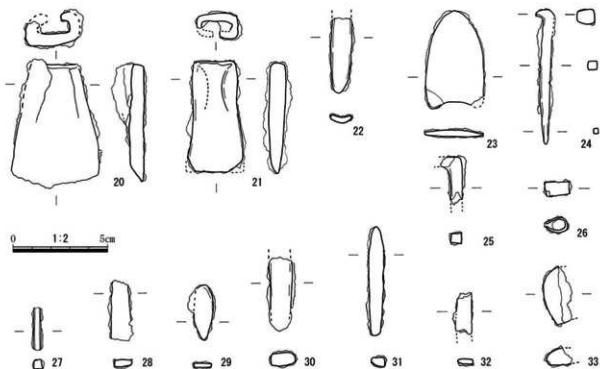
西端では深さ0.3m。全体で弥生後期から古代にかけての遺物が出土した。主体となるのは古墳時代前期の土器である。

甕には頸部に刺突文を施すものと波状文を施すものがある。甕6の刺突文は施文具を斜めに傾けて横方向に五個並べている。甕8のヘラ状工具による波状文は始点と終点があり、右から左方向に回転させて施文していることがわかる。甕2の外面にもヘラ状工具による斜線があり、これは周囲を四等分した位置に四本施されている。

軽石製の支柱16は8号住居検出中に出土したものの（第11図）と同程度の大きさであるが、加工整形の痕跡は明瞭ではない。全体に焼けているため赤く変色しており、白い粘土が付着する部分もある。

⑫溝SD-78（第6図）

調査区南半の3区と4区を分けるベルトの下にあり、調査区を横断する溝。埋土はやや明るい黒褐色土で、弥生～古墳時代および古代の遺構埋土と明確に判別できた。今年度の調査でこのような埋土はこの遺構のみであった。調査区東西端でベルト部を掘削し、断面形態などを確認した。長さ15mを検出し、幅0.95m、深さ0.3m。断面皿型で底部は平坦、幅0.45m。底部の標高は調査区西端で33.4m、東端で33.3mとわずかに西が高い。検出中に土鍾（第15図11）が出土し



第16図 53次調査 鉄製品

たので、積極的な根拠ではないが遺構の時期は中世か。

⑬その他の遺物（第15・16図）

検出中に出土した遺構に伴わない遺物などである。土師器の杯身1と椀3は柱穴72（土坑SK-69の南）出土。鉢6は完形品。赤色顔料付着土器の体部破片7は内面に水銀朱があり、外面にもごく薄く残るように見えるが、判然としない。頸部付近の破片8は内面にベンガラが付着する。石包丁9は欠損する。

瓦器小皿10は完形で内外面にヘラミガキを施す。土鍾は四点あり、いずれも同形同大。ミニチュア製品のうち、つまみ状製品15は穴が貫通する。土製勾玉とした16には穴がない。ミニチュア製品17は脚台部

分と考えたが、上下の判断に確証はない。ガラス小玉はいずれも青色を呈する。

鉄製品は21点出土し、ごく小片を除く14点を図示した。すべて検出中に出土し、遺構に伴うものはない。製品は鉄斧20・21、ヤリガンナ端部22、鉄鏃23がある。鉄斧20はやや大型、刃部が残存しているか錆によって明確ではない。釘状製品24・25と金具状製品26は後世の所産か。他にスラグなど加工・生産を伺わせる遺物は出土していない。

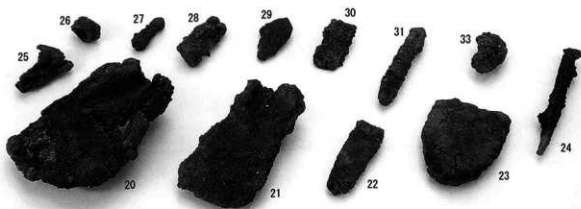


写真5 53次調査 鉄製品

第3章 54次調査の成果

第1節 グリッドの設定 (第17図)

調査区は南北15.5m、東西7.7mの長方形で、調査区南部で住居と見られる直線的な遺構を検出したことから、確認のため西と南を拡張している。南北方向5mごとにグリッドを設けた。グリッドの境界部分は幅60cmを通路として残し、断面確認にも利用した。グリッド名称は調査区の北からA・B・C区とした。調査面積は120㎡である。

第2節 層序 (第18図)

調査地の標高は約33.9～34.0m、畑として利用されていたためほぼ平坦。地表面から0.5mの掘削で遺構検出面に達し、その標高は約33.4～33.5mであった。基本的な堆積は以下のとおり。

- I層 (耕作土) 厚さ20～30cm 黒褐色砂質土
- II層 (包含層) 厚さ20～30cm 黒褐色粘質土、土器を含み、しまらない
- III層 (遺構埋土) 暗褐～黒褐色粘質土、地山起源のブロックを含み、しまらない
- IV層 (地山) 黒褐色土・灰～黄褐色土、ややしまる

第3節 遺構と遺物

全体で竪穴住居4、土坑6、柱穴などを検出した。

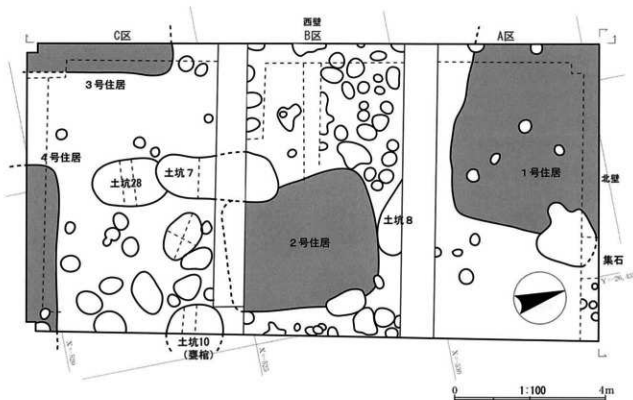
①1号住居 (第19図・図版6・8)

調査区北端(A区)で一部を検出した。北と西側は調査区外へ続く。北側を時期不明の遺構(土坑SK-32と集石遺構)に掘り込まれる。南北4m以上、東西4.7m以上。主軸は不明、方位は北から20度東に振れる。深さは西壁のサブトレンチで0.25m。一部が深くなるが、完掘していないためこの部分が貯蔵穴などの施設か不明である。検出中に若干の土器と石器(砥石)が出土した。なお、南側に硬化面と焼土が集中する範囲を検出したが、住居として捉えることができなかった。

遺物にはジョッキ形土器がある。これと接合する小破片が調査区全体で出土している。古代の遺物2～4はやや浮いた位置にあり、埋没中に混入したもの。

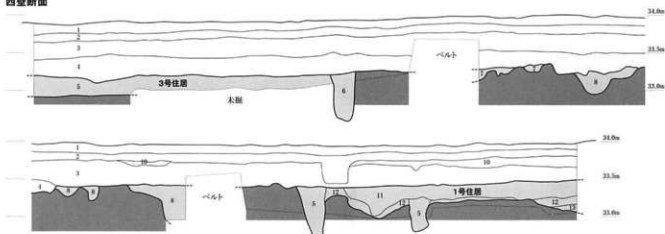
②2号住居 (第20図・図版5)

調査区中央(B区)で一部を検出した。南はB区とC区を分けるベルト下に位置するため検出していない。南を土坑SK-7に掘り込まれる。平面は長方形で南北4m、東西3.8m。南ベルトのサブトレンチを掘削し、深さは0.02m程度とごくごく浅い。主軸はほぼ方位

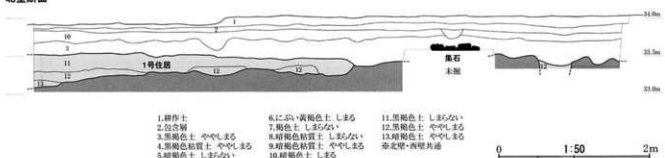


第17図 54次調査 遺構配置

西壁断面



北壁断面



- | | | |
|----------------|----------------|---------------|
| 1.耕作土 | 6.にぶい・黄褐色土・しまる | 11.黒褐色土・しまらない |
| 2.包含層 | 7.褐色土・しまらない | 12.黒褐色土・ややしまる |
| 3.黒褐色土・ややしまる | 8.暗褐色粘質土・しまらない | 13.暗褐色土・ややしまる |
| 4.黒褐色粘質土・ややしまる | 9.暗褐色粘質土・ややしまる | |
| 5.暗褐色土・しまらない | 10.暗褐色土・しまる | |

第18図 54次調査 土層断面

に沿う。検出中に壺口縁1が出土したが、埋土の残存が非常に悪いので、この遺物が住居の時期を示すものか明らかではない。

③ 3号住居 (第21図・図版6)

調査区南西 (C区) でごく一部を検出した。住居以外の遺構の可能性もあるが、直線的なラインから住居とした。西と南側が調査区外へ続く。検出規模は南北4m、東西1.6m。深さは西壁サブトレンチで0.25m。方位は北から10度西に振れる。土師器杯蓋と杯身が出土した。このうち杯身3は内面に「×」状のヘラ記号がある。

④ 4号住居 (第21図・図版6)

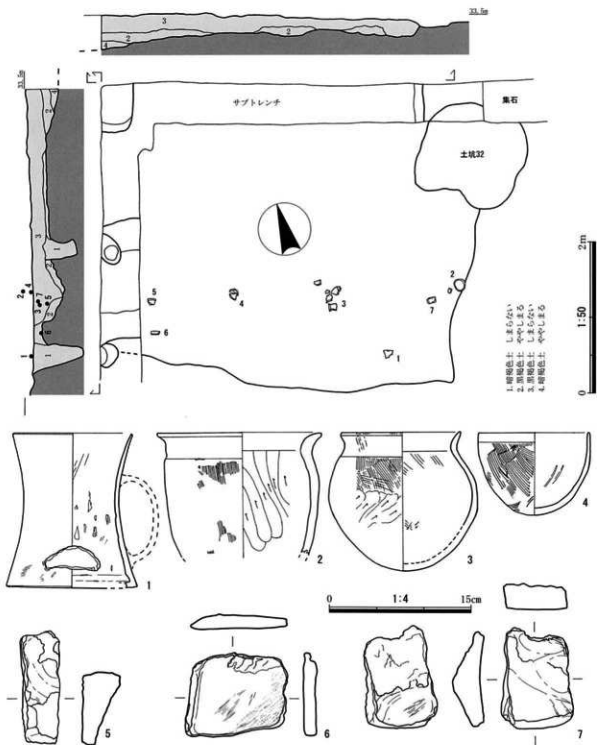
調査区南西 (C区) でごく一部を検出した。3号住居と同様、直線的なラインから住居と判断した。南と東側が調査区外へ続く。検出規模は東西3.9m、南北1m、深さ不明。方位は北から10度西に振れ、3号住居と類似する。図示できる遺物は出土しなかった。

⑤ 土坑SK-10 (裏棺 第22図・図版6)

調査区中央付近 (C区北東) に位置する小児用裏棺。遺跡では三地点目 (注1) となる裏棺である。土坑東側のごく一部が調査区外へ続く。南北3.75m、東西1.75m以上 (おそらく2m程度)、深さ0.4mの長楕円形土坑を二段に分けて垂直に掘り込み、裏を斜め (水平から43度立ち上がる) に差し入れて設置している。上下裏の合わせ目には白色粘土を貼り付けている。

下裏は完形だが上裏の上面が土圧のためか破損しており、そこから土が内部に流入し堆積していた。骨など脆弱な遺物が残存していないか確認するため取り上げ、堆積土を洗浄したが、遺物は出土しなかった。

上裏1は下裏よりやや小さい。上半部を製作時の粘土組接合部分で割り、蓋としている。下裏と同じ位置に突帯を巡らせて刻み目をつける。底部は平底で体部からわずかに突出する。底部近くの外面に竹管による刺突 (径6mm) が一点あり、この部分が設置時の上面となっていた。下裏2は外湾する短い口縁をもち、体部最大径は上半にある。体部から頸部にかけて丸みを帯び、強く頸部がくびれる壺状の形態である。中位に突帯を巡らせ、刻み目をつける。底部は平底である。



第19図 54次調査 1号住居と出土遺物

なお、調査区で検出した他の土坑についても裏棺の可能性が生じたため、サブトレッチを掘削したが、裏棺はこの一基のみであった。東側の53次調査でも検出していないので、墓地として他に裏棺が存在するなら、この地点以東で53次調査地点までの40m程度の範囲に限定される。

⑥土坑SK-7（第23図）

調査区中央付近のB・C区で検出し、一部を掘削し

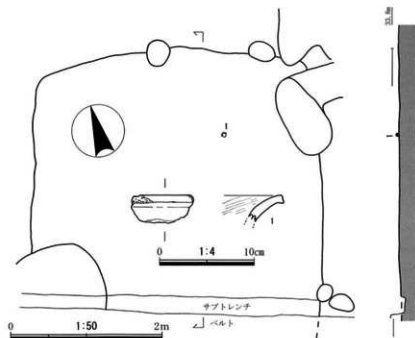
た。長さ3.3m、幅1.15m、深さ0.45m。滑石製石鍋が出土し、底部近くの破片内面（第24図24）には炭化物が付着している。調理ミスによるものか。

⑦集石遺構（第22図・図版6）

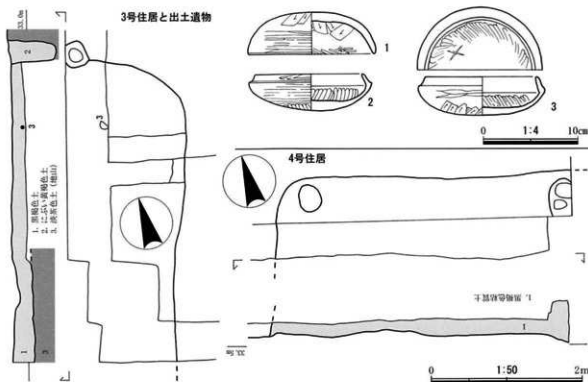
調査区北端（A区）で検出した。重機掘削中に礫が集中する範囲があったため、この箇所を残して人力で掘削・検出した。北側は調査区外へ続く。

東西1.4m、南北0.8m以上の範囲に円礫と凝灰岩の

角礫が集まり、上下に1~2石が重なっている。土が見える部分もあり、それほど集中していない。石材は表面を洗浄したが被熱の痕跡はなく、周囲に炭化物や焼土もなかった。検出中に土器が数点出土しているが、いずれも小片で、遺構に伴わない。検出範囲が限定的であること、出土遺物がなことから性格や時期を判断できなかった。当初は検出面が古墳時代の遺構面より0.2m程度高く、包含層中であつたため中世など後代の遺構と考えていた。しかし、検討委員から縄文時代遺構の可能性も指摘されている。



第20図 54次調査 2号住居と出土遺物



第21図 54次調査 3・4号住居と出土遺物

⑥その他の遺物 (第24図)

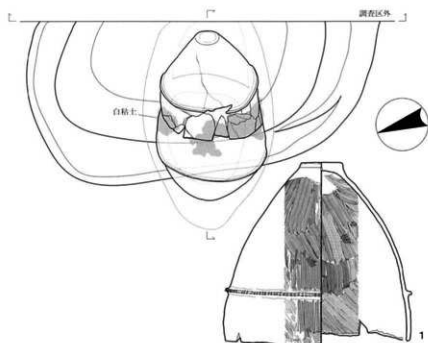
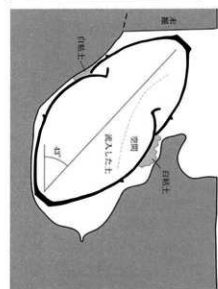
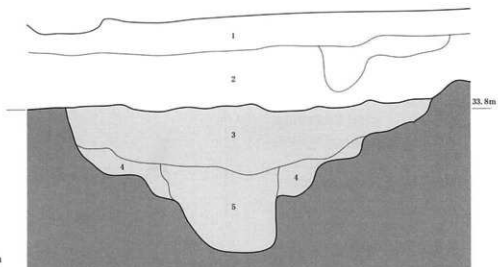
壺1はC区で一括して出土した。ほぼ完形に復元できた。周囲を精査したが掘り込みなどは検出できず、遺構として捉えられていない。肩部に同じ施文具で直線文と波状文を施す。ジョッキ形土器4・5は口縁と底部の破片で、胎土が異なる別個体。1号住居出土とあわせ、今回の調査で三個体のジョッキ形土器が出土している。器台6は小破片だが櫛書文・円形スカシな

どを施す搬入品。スカシは三箇所確認できる。

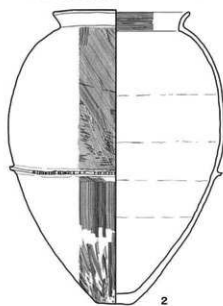
赤色顔料が付着した遺物には石材7・8と土器9~16がある。石材7はごくわずかに赤色顔料(ベンガラ)が残る。石棺の破片であろう。磨石(石杵)8は一面に赤色顔料(ベンガラ)が多く付着する。直径9.5×7.2cm、厚さ6cm。片手で握るとほどよい大きさの自然石で、加工していない。石材表面に摩擦痕跡はなく、押しつぶすような上下の動きのためにベンガラが付着

土坑10 (墓棺)

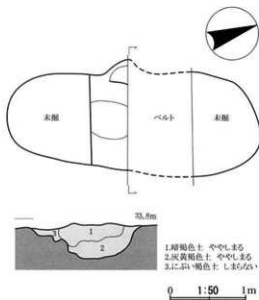
1. 緑作土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土 ややしまる (黄理め戻し土)
4. 暗褐色土 しまらない、地山ブロック多く含む (黄固定土)
5. 3層と4層がブロックで混合 (黄設置土)



集石



第22図 54次調査 土坑SK-10 (墓棺)・集石遺構



第23図 54次調査 土坑SK-7

したものである。方保田東原遺跡でこれまでに7点の石片が報告されているが、いずれも摩擦による平坦面をもつ（注2）。加工痕跡に乏しい円礫に赤色顔料が付着する資料としては初例である。

広口壺9は口縁内面にわずかに赤色顔料（ベンガラ）が残る。水銀の朱付着した破片のうち10・11および14・16は接合しないが胎土や焼成・調整が類似しているので、同一個体の別の部分か。

鉄製品17は板状で両端が破損している。

縄文土器18～20は検出中に出土した（注3）。他にこの時期の遺物は見られない。縄文時代早期の押型文土器18は楕円形の施文。外面に突帯状貼付を施す19は時期不明。外面全体に縄文を施す20は中期の船元系である。

中世の遺物も少量ではあるが出土している。滑石製石鍋23は口縁近くの破片、縦方向の把手を削りだす。焦げ付きが付着した底部付近24は土坑SK-7出土。どちらもやや大きな個体だが、温石などに再利用するための加工痕跡は見られない。

注1 甕棺は「塚の本」および「大道小学校体育館」において報告例がある。

・1966年…塚の本：甕棺2、箱式石棺1。立山広古「塚の本遺跡調査報告」『石人』第8巻2月号、城北史談会、1967

・1969年…大道小体育館：甕棺3。隈昭志「熊本県山鹿市大道小学校出土の弥生土器」『考古学雑誌』第69巻第1号、日本考古学会、1983

・1992年…大道小体育館：甕棺13、木棺墓1。中村幸史郎『方保田東原遺跡（7）』山鹿市文化財調査報告書第2集、山鹿市教育委員会、2006

・2003年…50次調査（137-1番地…1966年「塚の本」とほぼ同一地点）：甕棺らしき土坑を確認。山口健剛『方保田東原遺跡（8）』山鹿市文化財調査報告書第4集、山鹿市教育委員会、2007

注2 ①1次（1972年）②10次（1994年）③13次（1996年）④43次（2001年）⑤44次（2001年）⑥47次（2002年）⑦49次（2003年）

注3 縄文土器については熊本県立装飾古墳館池田朋生主任学芸員のご教示による。

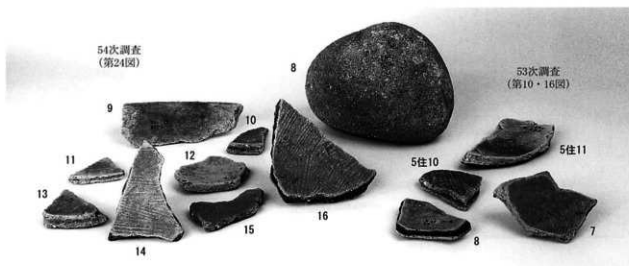
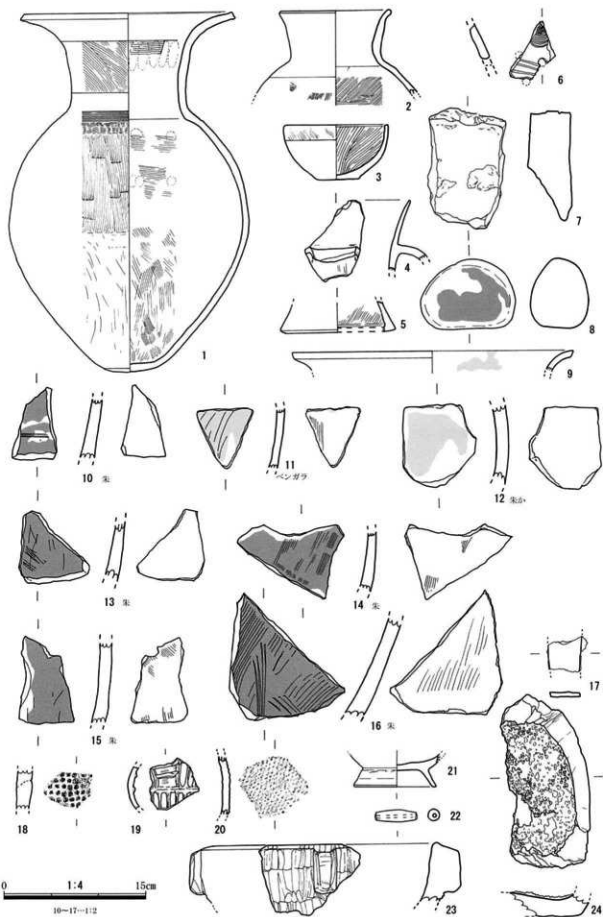


写真6 53・54次調査 赤色顔料付着遺物



第24図 54次調査 遺構外出土遺物

第 53 次調査

図 番	道標名	P 番号	部 位	口徑	器高	色調	出土・埋入物	状況	外 面	内 面	厚	備 考	実測図番号
7 1	1号住	P-5	口縁・胴部 口縁2/4残	(10.5)	不明	10YR7/2 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ タナメハケ	ヘラケズリ	有		1
7 2	1号住	P-4	口縁・底	不明	不明	10YR7/3 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ハケナデ	ハケナデ	無	胴部完形	2 2
7 3	1号住	P-2	底	不明	不明	7.5YR7/3 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ	ハケ・ヨコナデ	有		2 1
7 1	2号住	P-16	口縁・胴部	(11.8)	不明	10YR7/6 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・タナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無		9 3
7 2	2号住	P-51	ほぼ完形	12.5	12.2	10YR8/3 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・タナメハケ	ヨコナデ・ ナメハケ	無	外周特に摩滅	7 2
7 3	2号住	P-54	口縁・胴部	(14.0)	不明	10YR8/1 灰白色	良好・角閃石 長石	良	ナデ・タナメハケ	ナデ・ヘラケズリ	無		14 2
7 4	2号住	P-7	口縁・胴部	(13.4)	不明	5YR6/6 褐色	良好・角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・ヨコハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無		9 2
7 5	2号住	P-46	口縁・胴部	(13.7)	不明	10YR8/4 褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ヨコハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無		10 2
7 6	2号住	P-76	破片	(13.6)	不明	10YR7/3 にぶい、赤褐色	やや良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ ナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無	胴部にハケ工具による 削突	6 1
7 7	2号住	P-49	口縁・底	(13.7)	20.6	10YR8/4 褐色	やや良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・タナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	有		10 1
7 8	2号住	P-50	口縁・胴部	(14.2)	不明	10YR8/3 褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ ナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無	胴部に波文1	6 2
7 9	2号住	P-4	ほぼ完形	14.1	18.2	10YR8/3 褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ ナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無	底部内面に指面圧痕	7 1
7 10	2号住	P-36	口縁・胴部	15.4	不明	5YR7/6 褐色	やや精良・角閃石 長石	良	ナデ・ヨコハケ・ ナメハケ・タナメハケ	ナデ・ヨコハケ・ ヘラケズリ	無		12 1
7 11	2号住	P-10	口縁・胴部	(14.7)	不明	10YR8/3 褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・タナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無	胴部に波文1	9 1
7 12	2号住	P-34	口縁・胴部	(15.0)	不明	7.5YR7/3 にぶい、赤褐色	やや良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・ ナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	無		15
7 13	2号住	P-72	ほぼ完形	15.6	20.6	7.5YR7/2 明褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ ナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	有	吹さこばり痕	3
8 14	2号住	P-18	口縁・胴部	17.3	不明	2.5YR8/1 灰白色	良好・長石 雲母	良好	ナデ・タナメハケ・ ヨコハケ	ナデ・ヘラケズリ	有		14 1
8 15	2号住 C-4区	P-7	口縁・胴部	(17.6)	不明	7.5YR8/3 褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ナデ・タナメハケ	ナデ・ヘラケズリ	無	内外面に縦	13 2
8 16	2号住	P-12	口縁・底 口縁2/8残・体3/8	(15.6)	26.65	10YR7/2 にぶい、赤褐色	やや良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母		ヨコナデ・ ナメハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	有	胴部内面に縦	4
8 17	2号住	P-52	ほぼ完形 口縁欠存	(15.6)	22.8	10YR8/3 褐色	やや良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	有		5
8 18	2号住	P-64	口縁・胴部	(18.3)	不明	2.5YR8/2 灰白色	良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良	ナデ・ハケ	ナデ・ヘラケズリ	無	外周に刺突文5	13 1
8 19	2号住	P-1	口縁・底	(20.8)	26.3	10YR7/4 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・タナメハケ	ナメハケ・ナデ・ ユビヤエ	無		8 2
8 20	2号住	P-13	口縁・胴部 体部1/4残	(23.0)	不明	10YR7/2 にぶい、赤褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ ヘラケズリ	有	吹さこばり痕	16-17
8 21	2号住	P-54	口縁1/8残	(18.2)	不明	2.5YR6/8 褐色	精良・赤褐色粒 角閃石 長石	良好	ヨコナデ・ ナメハケ・ミガキ	タナメハケ・ヨコナデ	無	二重口縁痕	8 1

第 53 次調査 遺物観察表

図番	遺構名	P番号	図種	部位	口径	高さ	色調	地土・記入物	地質	外 面	内 面	痕跡	備 考	次図図番号
8 22	25号住	P-25	竪	頸部・胸部	不明	不明	10YR8/2 灰白色	良好・角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナデ波状文 ヘラケズリ	ナデ・ヨコナデ・ ヘラケズリ	無	波状文 内面に埋	11
8 23	25号住	P-58	台付鉢	完形	(16.4)	9.0	5YR7/8 褐色	精良・角閃石 石英	良好	ヨコハケ	ナデ・ヘラケズリ・ ハケ	無	通かし穴3	20 2
8 24	25号住	P-6	甕	完形	17.9	11.1	5YR6/8 褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナデ	無	通かし穴3	21 1
8 25	25号住	P-21	コシキ	ほぼ完形	16.0	8.8	10YR7/4 にぶい、黄褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ・ヨコハケ・ ヘラケズリ	ナデ・ヘラケズリ	有	底部に穿孔1	23 1
8 26	25号住	P-5	鉢	口縁・胸部	20.1	不明	10YR8/4 灰褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ナメナハケ・ ヨコナデ	ナメナハケ	無		22 2
8 27	25号住	P-29	台付鉢	完形	10.8	5.0	7.5YR7/8 黄褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英	良好	ヘラケズリ	ヘラケズリ・ハケメ	有		20 1
8 28	25号住	P-3	台付鉢	ほぼ完形	12.2	5.2	5YR6/8 褐色	精良・赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	指の跡よく残る	23 2
8 29	25号住	P-74	鉢	ほぼ完形	11.0	7.3	2.5YR6/8 褐色	やや精良・赤褐色粒 石英	良好	ヨコナデ・ ユビナデ	ヨコナデ	無		19 2
8 30	25号住	P-48	鉢	口縁・底部	(10.0)	6.3	10YR7/4 黄褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英	良好	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	無		19 3
8 31	25号住	P-27・29	甕	ほぼ完形	11.9	9.9	2.5YR6/8 褐色	やや精良・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ナメナハケ・ ヘラミガキ	ナメナハケ・ナデ・ ヘラミガキ	無	小型丸底甕	19 1
8 32	25号住	P-42	甕	口縁・底部	(11.8)	10.8	2.5YR6/8 褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	無		55 1
8 33	25号住	P-59	甕	口縁・胸部	(25.9)	不明	10YR6/4 にぶい、赤褐色	やや良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ナメナデ	ヨコナデ	無		22 1
10 1	55号住	P-14	竪	口縁・胸部 口縁17/16残	(16.4)	不明	10YR7/2 にぶい、黄褐色	やや精良・角閃石 長石 石英	良好	ヨコナデ・ ナメナハケ	ヨコナデ・ ナメナハケ	有		27 2
10 2	55号住	P-3・4	竪	胸部・胸部	不明	不明	5YR6/6 褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナメナハケ・ ヨコナデ	ナメナハケ・ ヨコナデ	無	全体に赤い	27 1
10 3	55号住	P-2	竪	底部・胸部	不明	不明	10YR7/4 にぶい、黄褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	砂型	28 2
10 4	55号住	P-11	竪	胸部・胸部	不明	不明	2.5YR6/6 褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ ヨコナデ	ヨコナデ・ ヨコナデ	無		28 3
10 5	55号住	P-1	竪	胸部1/3残	不明	不明	10YR8/3 灰褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英 黒曜石	良好	ヨコナデ・ナデ	ヘラ・ヨコナデ	無	砂型	28 1
10 6	55号住	P-8	甕	口縁・胸部	(15.6)	不明	10YR8/2 灰褐色	良好・角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有	胴部脇入部に突明、 縁を割目	25 1
10 7	55号住	P-9・10	甕	口縁・胸部 口縁14残	(17.4)	不明	10YR7/4 にぶい、黄褐色	良好・角閃石 長石 石英	良好	ナメナハケ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ ナメナハケ	無		26 1
10 8	55号住	P-5	無頭甕	口縁・底部 底部1/4残	(9.0)	16.95	10YR6/3 にぶい、黄褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・ナデ・ ナメナハケ	ヨコナデ・ナデ・ ナメナハケ	有	体底部等2、 底3部穴付	25 2
10 9	55号住	P-6	竪	口縁・胸部	(32.6)	不明	10YR8/3 灰褐色	良好・角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無		28 4
10 10	55号住	P-10	不明	胸部	不明	不明	10YR4/6 赤色	良好・角閃石 長石 石英 黒曜石	良好	タタハケ	ナデ	無	赤色顔料付着 ペンカク	26 2
10 11	55号住		竪	胸部	不明	不明	—	良好・長石 石英	良好	タタハケ	ヨコナデ	有	無 ペンカク	58 1
11 1	65号住	P-7	竪	口縁18/8残	(17.0)	不明	10YR8/3 灰褐色	良好・角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・タタハケ・ ヨコナデ	ヨコナデ・タタハケ・ ヨコナデ	有		29 1
11 2	65号住	P-6	鉢	口縁・胸部	(15.8)	不明	10YR6/9 にぶい、黄褐色	良好・角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	有		29 3

表4 53次調査 遺物観察表

図	番号	道幅	P番号	器用	部	位	口径	器高	色調	土上・混入物	地成	外面	内面	皿底	皿	備考	実測図	番号	
11	3	6号住	P-5	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(24.8)	不明	10YR7/3 にぶい、黄褐色	やや黄良・赤褐色粒 角閃石 長石・石英	良好	ヘラケズリ・ナデ	ヨコナデ	有	無	内面褐色		29	2
11	1	7号住	P-8	台付鉢	胴部・底部	胴部・底部	不明	不明	5YR6/6 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石・石英	良	ハケ・ヨコナデ	ナデ・ヘラケズリ	無	無			30	
11	1	8号住	P-12	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(10.6)	不明	7.5YR7/4 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石・石英	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ	無	無			33	
11	2	8号住	P-11	鉢	口縁・底部	口縁・底部	(18.4)	28.8	5YR6/6 にぶい、褐色	精良・赤褐色粒 角閃石 長石・石英 雲母	良好	ヨコナデ	ヘラケズリ・ナデ	有	有			31	
11	3	8号住	P-10・11	鉢	ほぼ完全形 口縁3/8径	ほぼ完全形 口縁3/8径	18.9	34.2	5YR6/6 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石・石英 雲母	良好	ヨコナデ	ナデ・ヘラケズリ	有	有	二次的な彫け跡		32	
12	1	9号住	P-2	壺	口縁・胴部	口縁・胴部	14.2	不明	7.5YR7/6 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石・石英	良好	ヨコナデ	ナデ	有	無	小型丸底壺		34	1
12	3	9号住	P-6	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(14.8)	不明	5YR6/6 にぶい、褐色	精良・赤褐色粒 角閃石 長石・石英	良好	ヘラケズリ・ミナギキ	ヨコナデ	無	無			34	2
12	2	9号住	P-10	杯	口縁・底部	口縁・底部	(10.6)	3.15	10YR7/2 にぶい、黄褐色	やや良好・角閃石 長石 石英 雲母	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ	有	無			35	
12	4	9号住	P-4	鉢	完全形	完全形	(16.8)	23.5	10YR6/3 にぶい、黄褐色	やや良好・長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ	ヘラケズリ	無	有	同上表示 底は全体に平のみ		36	
14	1	土坑69	P-5	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(15.6)	不明	5YR7/6 にぶい、褐色	良好・長石 石英	良・ 良好	ナデ・タテハケ	ナデ・ヘラケズリ	無	無			40	2
14	2	土坑69	P-2	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(21.6)	不明	7.5YR6/4 にぶい、褐色	良好・長石 石英	良好	ナデ・ハケ・ナデ	ナデ・ヘラケズリ	無	無			40	1
14	3	土坑69	P-23	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(22.0)	不明	7.5YR6/3 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 長石	良好	ナデ・タテハケ	ナデ・ヘラケズリ	無	無			41	2
14	4	土坑69	P-4	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	(36.8)	不明	7.5YR6/4 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ヘラケズリ	無	無			41	1
14	5	土坑69	P-10	鉢	口縁1/8径	口縁1/8径	(14.8)	不明	7.5YR6/6 にぶい、褐色	精良・赤褐色粒 長石	良好	ナデ・ミナギキ・ ヘラケズリ	ナデ・ミナギキ・ ヘラケズリ	無	有			38	2
14	6	土坑69	P-30	取手	破片	破片	長さ 16.0	直径4.0	10YR6/2 灰白色	良好・長石 石英	良好	ユビオサエ	—	無	有	長い		43	
14	7	土坑69	P-24	壺	口縁・胴部	口縁・胴部	(22.0)	不明	5YR6/3 にぶい、褐色	精良・長石 石英	良好	ナデ・ナデ・タタキ	ナデ・タタキ	無	無	須磨器・ヘラケズリ×1 胴部に自然輪		39	
14	8	土坑69	P-7	杯	口縁1/4径	口縁1/4径	(13.6)	5.6	7.5YR6/6 にぶい、褐色	良好・長石	良好	ナデ	ナデ	無	無	須磨器		42	2
14	9	土坑69	P-29	杯	口縁3/8径	口縁3/8径	(13.4)	6.0	5YR6/2 にぶい、褐色	良好・長石	良好	ナデ	ナデ	無	無	須磨器 内外面でも色差		42	1
14	10	土坑69	P-6	盃・杯	胴部1/8径	胴部1/8径	不明	不明	7.5YR7/1 灰白色	やや精良・長石 石英	良好	ナデ	ナデ・指ナデ	無	無	須磨器		38	1
15	1	落ち込み 77	P-35	鉢	完全形	完全形	(12.6)	17.1	10YR7/2 にぶい、黄褐色	やや良好・赤褐色粒 長石 長石・石英 雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有	同上覆元		46	1
15	2	落ち込み 77	P-11	鉢	ほぼ完全形	ほぼ完全形	12.6	16.1	5YR6/3 にぶい、褐色	良好・角閃石 長石 雲母	良好	ヨコナデ・ハケ	ヘラケズリ	無	有	依成厚丸2		50	1
15	3	落ち込み 77	P-36・37	鉢	口縁・胴部	口縁・胴部	14.5	不明	7.5YR7/2 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	無	有	底部に多い		48	2
15	4	落ち込み 77	P-34	鉢	ほぼ完全形	ほぼ完全形	14.8	15.8	10YR6/1 灰白色	やや良好・赤褐色粒 長石 長石・石英 雲母	良好	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	有	有			47	1
15	5	落ち込み 77	P-5・8	鉢	口縁・胴部 口縁1/8径	口縁・胴部 口縁1/8径	(15.0)	不明	10YR6/3 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ・ヨコハケ	ヨコナデ	無	有	外面に指紋		47	2
15	6	落ち込み 77	P-36	鉢	完全形 胴部3/4径	完全形 胴部3/4径	15.4	22.1	10YR6/3 にぶい、褐色	良好・赤褐色粒 長石 雲母	良好	ナメ・ハケ	ナメ・ハケ	有	無	胴部に刺突5		49	

表5 53次調査 遺物観察表

図 番号	遺構名	P 番号	器種	部 位	口径	器高	色調	胎土・記入物	形状	外 面	内 面	裏面	備 考	見取図 番号
15 7	落ち込み P32	裏	裏	ほぼ方形	15.4	20.0	10YR8/2 灰白色	良好・赤褐色粒 長石 雲母	良好	ヨコナデハケ カタナデナデ消し	ヨコナデ ベロミガキ	有	底部に底穿孔か	48 1
15 8	落ち込み P28	裏	裏	方形	(16.0)	26.5	10YR8/3 灰白色	やや良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ヨコナデ カタナデ	ヨコナデ ベロミガキ	有	波状口、右一左	46 2
15 9	落ち込み P22	底	底	口縁肩部 口縁1/2線	27.0	不明	10YR8/3 灰白色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良	ハケヘナケズリ	ハケヘナケズリ	無	複合口縁、 粘土層目同様	51
15 10	落ち込み P27	環	環	口縁1/4線	(13.2)	不明	5YR6/6 明茶褐色	精良・石炭	良好	ヨコナデ ベロミガキ	ヨコナデ ベロミガキ	無		53 2
15 11	落ち込み P27	環	環	口縁1/4線	(11.8)	不明	5YR6/6 暗茶褐色	精良・赤褐色粒 長石	良好	ヨコナデ ベロミガキ	ヨコナデ ベロミガキ	無		53 3
15 12	落ち込み P29	環	環	口縁基部	(19.5)	4.9	7.5Y7/4 にじみ褐色	精良・赤褐色粒 長石 石英 雲母	良好	ヨコナデハケ	ヨコナデ ベロミガキ	有		53 1
15 13	落ち込み P25	鉢	鉢	方形	13.4	5.0	5YR6/8 にじみ褐色	精良・角閃石 長石 石英	良好	ケズリ	ヘラミガキ	無		50 3
15 14	落ち込み P6	底	底	ほぼ円形 口縁5/8線	12.6	10.4	5YR6/4 にじみ褐色	やや精良・赤褐色粒 角閃石 長石	良好	ヨコナデ ベロミガキ	ヨコナデ ベロミガキ	有	小型丸底型、 小形丸底型、 やや粗型	50 2
15 15	落ち込み P4	底	底	口縁基部	(13.8)	7.5	2.5YR6/6 暗褐色	良好・長石 石英	良好	ヨコナデハケ	ヨコナデ	有		52
16 1	PT-72	P-1	環A	ほぼ方形	13.8	4.35~4.2	2.5YR5/2 灰白色	精良・長石	良好	ヨコナデ糸切り	ヨコナデ	有	口縁やや収む、 底部外面に火押	37 1
16 2	包含層	P-15	杯	口縁基部	(14.4)	4.5	10YR7/4 にじみ褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ヘラミガキ	ヨコナデ ベロミガキ	無	内面収む	37 2
16 3	PT-72	P-17	鉢	ほぼ方形	15.5	5.4	5YR7/4 にじみ褐色	良好・赤褐色粒 長石	良好	ケズリナデ	ヨコナデ ベロミガキ	無	口縁ほぼ方形、 復原内面に土を 足しユビオサエ	44
16 4	遺構外	P-1	底	頸部・胴部	不明	不明	5YR6/6 暗褐色	精良・赤褐色粒 角閃石 長石 石英	良好	ヨコナデ ベロミガキ	ヨコナデ	無		24 2
16 6	遺構外	P-2	鉢	方形	15.8	8.8~8.2	10Y7/4 にじみ褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石 石英 雲母	良好	ナメナケナデ	ヨコナデ	有	口縁やや収む	24 1
16 7	遺構外 B 区	P-33	裏	胴部	不明	不明	2.5YR4/2 灰白色	良好・赤褐色粒 長石 石英	良好	タチハケ	ヨコハケ	無	内面に土、外面にも?	58 2
16 8	遺構外 C 区		裏	胴部	不明	不明	灰白色	やや精良・長石	良好	ヨコハケ	ヨコハケ	無	内面に土	58 3
16 10	遺構外 C 区		小皿	方形	9.5	2.1	N4 灰色	精良	良好	ヨコナデ ベロミガキ	ヘラミガキ	無	瓦器	57 1
16 15	遺構外	P-5	ミニチュア	破片	直径1.3	不明	10YR7/3 にじみ褐色	良好・赤褐色粒 角閃石 長石	良好	タチハケ	タチハケ	無	つまみか、穴貫通	56 3
16 16	遺構外	P-4	土製均玉	ほぼ方形	直径1.0	長さ2.9	10YR8/3 灰白色	やや精良・角閃石	良好	ユビオサエ	ユビオサエ	無	3.5g、穴なし	56 4
16 17	遺構外	P-2	ミニチュア	脚部	2.5	不明	2.5YR5/1 黄灰色	良好・角閃石 長石	良好	ユビオサエ	ユビオサエ	無	杯部か	56 5

54次調査

図 番号	遺構名	P 番号	器種	部 位	口径	器高	色調	胎土・記入物	形状	外 面	内 面	裏面	備 考	見取図 番号
19 1	1号住	P-5	ジョッキ	取手・底なし破片	(12.6)	16.5	2.5YR8/6 黄褐色	精良・長石 石英 雲母	良好	ナデハケ	ヨコナデハケ	無	灰色皿、二次的な痕跡? 内面にしじり痕	7
19 2	1号住	P-4	裏	口縁基部	(17.6)	不明	2.5YR8/4 黄褐色	良好・赤褐色粒 長石	良	ナデ、タチハケ	ナデ、タチハケ	有	外面は指圧痕が多い	6 1
19 3	1号住	P-6	鉢	ほぼ方形	12.8	14.7	10YR8/3 黄褐色	良好・角閃石 長石 雲母	良好	ナデ、タチハケ	ナデ、タチハケ ヘナケズリ	有	ゆがむ	6 3

表 6 53・54次調査 遺物観察表

図 番号	通称名	P番号	器種	部 位	口径	器高	色調	土主・記入物	地境	外 面	内 面	底	備 考	実測図 番号	
19 4	1号住	P-7	鉢	ほぼ完形	(12.0)	8.6	10YR7/2 にぶい、黄褐色	良好・赤褐色・角閃石 長石・石英	良好	ナデハケ	ナデハケミガキ	有	無	丁寧なつくり	6 2
20 1	2号住	P-2	甕	口縁	不明	不明	10YR7/3 にぶい、黄褐色	良好・赤褐色・長石 長石・石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ナナメハケ	無	無		8 2
21 1	3号住	P-3	蓋杯	ほぼ完形	(13.0)	4.4	7.5YR7/3 にぶい、褐色	やや精良・赤褐色・長石	良好	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無		5 3
21 2	3号住	P-3	杯身	ほぼ完形	11.1	3.8	5YR5/4 にぶい、黄褐色	やや精良・赤褐色・長石	良好	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	無	無		5 2
21 3	3号住	P-2	杯身	ほぼ完形	11.4	4.1	5YR5/4 にぶい、黄褐色	精良・赤褐色・角閃石 長石	良好	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	有	内面にヘラ記号「X」	5 1
22 1	土坑10		甕・上	完形	49.3	48.9	7.5YR7/6 褐色	良好・角閃石・長石・雲母	良好	ハケ	ハケ	有	無	土器と銅器間に キザミ突出1	2
22 2	土坑10		甕・下	完形	36.0	79.2	7.5YR7/6 褐色	良好・角閃石・長石・雲母	良好	タタキ・ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	有	無	54号で突出して 長い・湾曲	1
24 1	遺跡外	P-6	壺	口縁・底部	(22.0)	38.2	10YR6/2 灰黄褐色	やや精良・赤褐色・角閃石 長石・雲母	良好	ヨコナデ ナナメハケ	ヨコナデハケ	有	無		3
24 2	遺跡外	P-5	壺	口縁	(11.2)	不明	10YR7/3 にぶい、黄褐色	良好・赤褐色・長石・雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無		4 3
24 3	遺跡外	P-9	鉢	完形	10.3	5.8	10YR7/3 にぶい、黄褐色	やや精良・長石・石英・雲母	良好	ハケ・ナデ ナデ	ヨコナデハケメ	無	無		8 1
24 4	遺跡外 AS・後半	ジョッキ	ジョッキ	取手	不明	不明	10YR6/3 灰黄褐色	やや精良・角閃石・長石 雲母	良好	ヨコナデ タテナデ	ヨコナデ タテナデ	無	有		11 1
24 5	遺跡外 CS	ジョッキ	ジョッキ	胴部・底部	不明	不明	10YR6/2 灰黄褐色	良好・赤褐色・角閃石 長石・石英	良好	ナナメハケ	ナナメハケ	無	無		11 2
24 6	遺跡外 CS・CSST	器台か	破片	破片	不明	不明	7.5YR6/4 褐色	やや精良・角閃石・長石 石英・雲母	良好	ミガキ・ヘラ・洗滌	ナデ	無	無	透かし孔3	14 1
24 9	遺跡外 CS・CSST	壺	口縁	不明	30.0	不明	10YR7/3 にぶい、黄褐色	良好・角閃石・長石・石英 雲母	良	ナデ	ナデ	無	無	赤色顔料付着 ベンガラ	13 3
24 10	遺跡外 CS	P 61	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	5YR6/2 灰褐色	良好・長石・石英	良好	ナデ	ナデ	無	有	朱	13 2
24 11	遺跡外 BS・後半	赤色顔料 付着	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	5YR6/2 灰褐色	やや精良・角閃石・石英	良	ハケ	ハケ	無	無	内外面にベンガラ	12 5
24 12	遺跡外 BS	赤色顔料 付着	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	10YR6/3 灰黄褐色	良好・角閃石・長石・石英	良	摩滅	摩滅	無	無	内面わずかに付着、 灰か	12 3
24 13	遺跡外 CS・後半	赤色顔料 付着	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	10YR7/3 にぶい、黄褐色	良好・長石・雲母	良好	ナデ	ナデ	有	無	朱	13 1
24 14	遺跡外 AS・後半	赤色顔料 付着	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	10YR6/2 灰褐色	やや精良・角閃石・石英	良好	タテハケ	タテハケ	無	有	朱	12 1
24 15	遺跡外 BS・CSST	赤色顔料 付着	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	7.5YR6/1 灰褐色	良好・角閃石・石英・雲母	良好	タテハケ	ハケ	有	無	朱	12 4
24 16	遺跡外 AS・後半	赤色顔料 付着	赤色顔料 付着	胴部	不明	不明	5YR6/2 灰褐色	やや精良・長石・石英	良好	タテハケ	ハケ	有	無	朱、濃い	12 2
24 18	遺跡外 JSTAL区	銅文土器	銅文土器	胴部?	不明	不明	10YR6/2 灰褐色	良好・角閃石・長石・石英	良好	押型文	ヘラ・ナデ	無	無	やや摩滅	10 2
24 19	遺跡外	銅文土器	破片	不明	不明	不明	10YR6/4 にぶい、黄褐色	良好・角閃石・雲母	良好	貼付模文 (タテ・ヨコ)ヘラ	ヨコナデ	無	無	型式不明	10 1
24 20	遺跡外	P-4	銅文土器	破片	不明	不明	7.5YR6/4 にぶい、褐色	良好・赤褐色・長石・雲母	良好	掘削模文	ヨコナデ ヨコナデ ユビキナエ	無	無	中国地方の中津の 船式か	8 3
24 21	遺跡外	P-9	皿	胴部	不明	不明	7.5YR6/2 灰白色	やや精良・角閃石・長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無		4 1

表7 54次調査 遺物観察表

53次調査

図	No	器種・部位	出土地・遺構	長さ	幅	厚さ	重量	備 考	実測図	No
11	4	砥石	7号住、S-1	16.1	7.4	5.5	80.0	三面使用	60	
11	4	軽石製支柱	8号住、S-3	22	8.8	8.8	88.0		59	2
14	11	砥石	道橋外	5.3	4.2	3.7	123.0	五面使用	56	1
15	16	軽石製支柱	落ち込み7、S-1	21.8	8.4	11.9	116.0	熱を受け赤変、部分的に白粘土付着、116g	59	1
16	11	土鍾	道橋外 A-4区、P-3	4.5	1.2	—	5.0	10YR8/3 浅黄褐色、3/4残	57	4
16	12	土鍾	道橋外 C-1区、P-1	4.5	.85	—	2.7	5YR5/6 明赤褐色、ほぼ完形	57	3
16	13	土鍾	道橋外 C-1区	4.8	1.2	—	5.7	7.5YR6/4 に近い褐色、ほぼ完形	57	2
16	14	土鍾	道橋外 B-1区	3.4	1.15	—	4.3	10YR7/3 に近い黄褐色、完形	57	5
16	18	ガラス玉	道橋外	—	3.5	2.8	—	完形、水色、ややゆがむ	58	5
16	19	ガラス玉	道橋外	—	4.65	3.5	—	完形、濃青色	58	4
16	9	石包丁	道橋外	(9.4)	4.1	0.6	51.2	穿孔直径0.6	56	2
17	20	袋状鉄斧	C-2区、FE-19	6.5	4.7	—	77.0	刃部欠損か	61	15
17	21	袋状鉄斧	B-1区、FE-6	6.0	3.0	—	32.8		61	6
17	22	ヤリガンナ	B-4区、FE-10	4.0	1.2	3.0	4.0	先端欠損	61	8
17	23	簾	A-4区、FE-3	5.2	3.0	0.4	13.3	無茎	61	3
17	24	釘か	C-4区、FE-15	7.2	1.0	0.9	6.0	錆進行	61	12
17	25	釘か	B-3区、FE-14	2.5	0.6	0.6	3.2	錆進行	61	11
17	26	金具か	A-4区、FE-17	0.8	1.5	0.2	0.9		61	14
17	27	棒状	A-4区、FE-2	2.3	0.5	0.5	1.3	両端欠損か	61	2
17	28	不明	A-4区、FE-16	3.2	1.0	0.4	3.4	両端欠損	61	13
17	29	不明	B-4区、FE-4	3.0	1.0	0.3	2.6		61	4
17	30	不明	A-4区、FE-5	4.0	1.5	0.8	6.7		61	5
17	31	不明	B-4区、FE-11	5.8	0.5	0.6	4.2	完形か	61	9
17	32	不明	C-2区、FE-12	2.2	0.9	0.3	1.1	両端欠損	61	10
17	33	不明	B-4区、FE-8	3.2	1.0	1.0	4.0		61	7
24	7	石包片	道橋外	12.5	8.5	4.0	660.0	わずかにベンガラ付着 部位不明	9	2

54次調査

図 番号	器種・部位	出土地・遺構	長さ	幅	厚さ	重量	備 考	実測図	番号
19 5	砥石	1号住、S-2	11.8	7.3	3.7	46.0	一面使用	15	2
19 6	砥石	1号住、S-3	10.2	8.7	1.4	20.0	二面使用	15	3
19 7	砥石	1号住、S-1	9.5	6.8	2.5	32.0	三面使用	15	1
24 8	磨り石	道橋外	10.2	7.6	6.4	630.5	自然石 一面にベンガラ付着	14	2
24 17	鉄片	A区土坑32	1.9	1.8	0.2	1.4	両端欠損 刀子か	17	
24 22	土鍾	道橋外 西ST	4.6	1.3	1.2	4.6	10YR8/3 浅黄褐色	10	3
24 23	石銅口縁	道橋外	—	—	—	—	2.5YR6/1 黄灰色	9	1
24 24	石銅底部	土坑7、S-2	—	—	—	—	N2/ 黒色、内面に炭化物付着	16	

表8 53・54次調査 遺物観察表

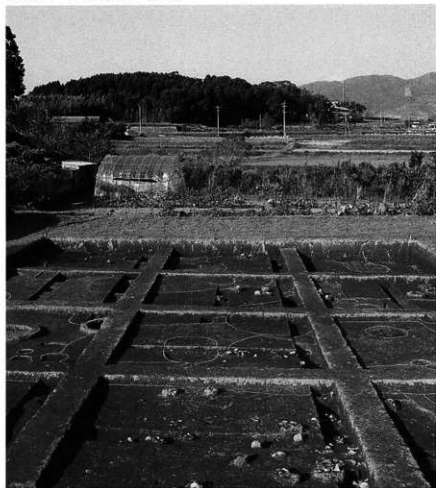


調査地遠景（南から撮影）



調査地全景（上が北 右：53次調査区 左：54次調査区）

図版2 53次調査 遺構



調査区全景（南西から）



調査区全景（南から）



2・3区（東から）



調査区全景（北から）

図版 4 53次調査 遺構



調査区西壁（北東から）



B-4区2号住居 遺物出土状況（東から）



A-4区土坑SK-69（東から）



調査区全景（南から）



1・2区（南東から）



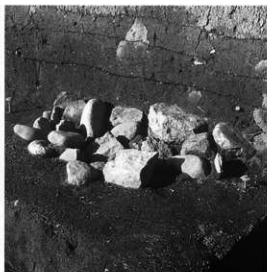
A区1号住居（東から）



C区3・4号住居（南東から）



B区土坑SK-10（壺棺）（北から）



A区集石遺構（東から）



9



13



10



18



17



22



24

図版 8 53・54次調査 遺物

53次



落ち込み 77 6

53次



落ち込み 77 2

53次



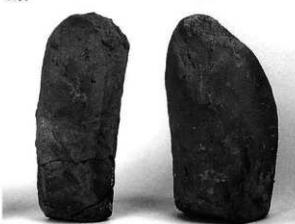
落ち込み 77 7

54次



1号住居 1

53次



8号住居 4

落ち込み 77 16

54次



23 写真のみ

24

報告書抄録

ふりがな	かとうだ ひがしばる いせき
書名	方保田東原遺跡 10
副書名	平成16年度国庫補助事業 遺跡内容確認調査報告書
シリーズ名	山鹿市文化財調査報告書
シリーズ番号	第7集
編著者名	宮崎 歩
編集機関	山鹿市教育委員会
所在地	〒861-0382 熊本県山鹿市方保田128 (出土文化財管理センター) 電話0968-46-5512
発行年月日	2008年3月31日

所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
方保田東原	熊本県山鹿市 方保田字東原 35・41-1番地	43208-179	32° 59′ 53″	130° 43′ 04″	2004.10.5-12.27	300㎡ 120㎡	内容確認

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
方保田東原 53次	集落	弥生～ 古墳 平安	住居13 土坑 溝	土器 (弥生土器、古式土師器、 須恵器、土師器) 鉄製品 赤色顔料関連遺物 (朱・ベンガラ付着土器、 磨り石)	
54次			住居 4 小児用甕棺 1		遺跡で三地点目の 甕棺

山鹿市文化財調査報告書第7集
方保田東原遺跡 10

平成 20 年 3 月 31 日

編 集 山鹿市教育委員会・文化課
熊本県山鹿市方保田128
山鹿市出土文化財管理センター内

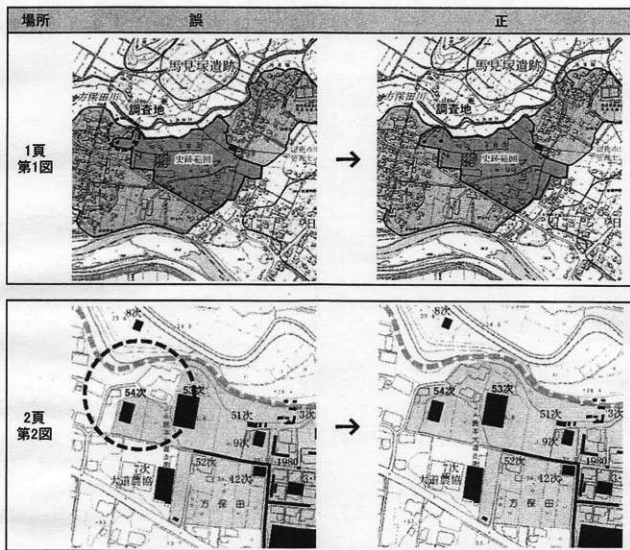
発 行 山鹿市教育委員会
熊本県山鹿市山鹿1026-2

印 刷 株式会社 トライ
熊本県鹿本郡植木町味取373-1

正誤表

『方保田東原遺跡10』山鹿市教育委員会、2008

下記部分(史跡指定範囲)に誤りがありましたので、訂正をお願いします。



◎問合せ先
山鹿市教育委員会文化課
(出土文化財管理センター)
〒861-0382山鹿市方保田128
T/F. 0968-46-5512

正誤表

『方保田東原遺跡(10)』 山鹿市文化財調査報告書 第7集 熊本県山鹿市教育委員会2008年

文中

頁	左右	行 図 番	誤	正
15	左	13	(第15図16)	(第14図16)
15		第12図	土坑18	土坑81
18		第15図8	朱	ベンガラ
26		第24図	7・8・9記入漏れ	7・8・9ベンガラ
26		第24図	11 ベンガラ	11 朱
26		第24図24	記入漏れ	SK-7

土器観察表

頁	図 番号	誤	正
27	7 2	備考 脚部完形	削除
29	14 1～10	図 14	図 13
29	15 1～6	図 15	図 14
30	15 7～15	図 15	図 14
30		図 15-10	図 14-11
30		図 15-11	図 14-10
30	16 1～17	図 16	図 15
30	16 5	記載漏れ	下表を挿入
30	16 8	備考 内面に朱	備考 内面にベンガラ
32	11 4	7号住居	6号住居
32	14 11	図 14	図 13
32	15 16	図 15	図 14
32	16 9. 11～14. 18. 19	図 16	図 15
32	17 20～33	図 17	図 16
32	24 7		54次調査の表へ

図	番号	遺構名	P番号	器種	部位	口径	器高	色調	胎土・施入物	焼成	外面	内面	黒灰	煤	備考	実測図	番号
15	5	遺構外 A-1区	P-1	壺	頸部・底部	-	-	SYR6/6 橙色	良好・赤褐色 色粒・角閃石・長石・雲母	良好	タテヘラミガキ・ 櫛歯文 ・ヨコヘラミガキ	タテヘラミガキ・ ヨコナデ・ヘ ラ調整・指ナ デ	無	無		54	

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第7集 方保田東原遺跡 10』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

なお、平成 17 年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名：山鹿市文化財調査報告第7集 方保田東原遺跡 10

発行：山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3

電話：0968-43-1651

URL：<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2025 年6月 19 日